



ゼミナール

Learning Guide

日本大学での学びの基本がわかる本(保存版)



ミライヲ ツクリ

Learning Guide

日本大学での学びの基本がわかる本(保存版)

「ミライツツル」を見れば、4年間の学び方や取り組み方がわかる！

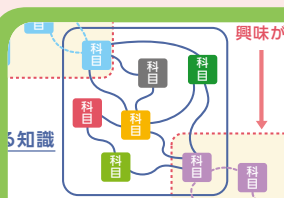
新入生のための
Learning Guide

コンテンツNavi

日本大学における効果的な学修のための

ガイド編

充実した大学生活にするために、日本大学でできる学び、学修の仕方、取り組み方をガイドします。



日ごろの授業で
差が付く、
日本大学の教育

講義と体験型学習がミックス
した、ハイブリッド型授業で
グングン成長！

→ 詳しくは、P.10～P.13へ

日本大学で
学ぶということ、
「自主創造」って何？

日本大学の教育理念「自主創造」
とは何か、皆さんの卒業時の姿
がどうなるかがわかる！



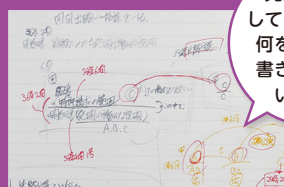
→ 詳しくは、P.6～P.9へ



学びと体験を
広げるしくみ

大学の様々な制度やプログラムを使って、
能力を伸ばそう！

→ 詳しくは、P.14～P.19へ



先生が板書
してくれない？
何をノートに
書き留めれば
いいの？

教えて！講義の
ノートの取り方

講義を聞きながら書き留める
のが難しい！ノートの取り方
のコツを伝授。

→ 詳しくは、P.33～P.35へ

授業は
様々な
形式がある？

講義、ゼミ、実験・実習・
実技など、様々な授業への
取り組み方を解説。

→ 詳しくは、P.28～P.31へ

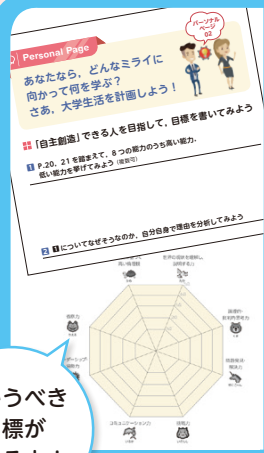


大学の
授業ってどんな
感じかな？
ついていける
かな？



戸惑うことだらけ…。
レポート、
グループワーク、
プレゼンテーション！
取り組むコツをレクチャー

→ 詳しくは、P.36～P.43へ



向かうべき
目標が
できるよ！

あなたの学びや
活動の計画を、
Personal Pageに
書いてみよう！

充実した大学生生活を送るには、まず計画から。冊子の中にあるPersonal Pageを活用して、目標と計画を立て、活動経過も記録すれば、どれだけ成長できたか振り返るのに役立つよ。

→ 詳しくは、P.20～P.24へ

履修や単位修得のための

知識編

授業の履修や単位修得で失敗しないために、知っておくべきアレコレを教えます。

履修登録の仕方、 シラバスって？

履修科目の登録のルール、
シラバスの見方がわかる！

→ 詳しくは、P.50～P.53へ

履修登録の仕方	シラバスの見方
履修登録のルール	履修登録のルール
履修登録の方法	履修登録の方法
履修登録の注意事項	履修登録の注意事項



悩んだときは まず相談

一人で悩まない。困った、
相談したい、教えてほしい
など、頼れる窓口や制度を
覚えておこう！

→ 詳しくは、P.60～P.63へ

	満点	評価	単位数	内容
合格	100～90点	S	4	特に優れた成績を示したもの
	89～80点	A	3	優れた成績を示したもの
	79～70点	B	2	妥当と認められたもの
不合格	69～60点	C	1	合格と認められるための成績を示す
	59点以下	D	0	合格と認められるに足る成績を示す
	—	E	0	履修登録をしたが成績を示さず
	—	P	—	履修登録後、所定の履修中止手順
—	N	—	留学や編入学などにより、修得単位が	

授業時間 2 時間	+	× 15 週 = 90 時間
授業時間外の学修 (予習・復習など) 4 時間		

予習 2時間	授業 2時間	復習 2時間	× 15 週 = 2 単位
2時間	2時間	2時間	

成績はどういう 方法で決まるの？

どのように成績評価されるの
かがわかる！
だから、学修の目標ができる！

→ 詳しくは、P.54～P.58へ

Contents

日本大学における効果的な学修のための **ガイド編**

第1章 ミライツクル日本大学での学び	6
あなたのミライをひらく「自主創造できる人」を目指そう！	6
大学で学ぶということ 6	
「自主創造」のための道を示す日本大学教育憲章	8
1 「自主創造」とは、何か 8	
2 あなたのミライに必要なとなる8つの能力を示した「日本大学教育憲章」 8	
社会で生きる学びのために	10
1 日本大学の授業科目は、知識とそれを活用する能力を組み合わせたハイブリッド型が基本！ 10	
2 日本大学の学びの流れと全体像 12	
3 授業から様々な視点を得て、もっとアクティブに学ぼう！ 13	
8つの能力を育てるために、様々な学び・体験の場を活用しよう	14
1 自ら学び、知識を蓄え、視野を広げよう 14	
2 自ら考える力、切りひらく力の土台を築く 15	
3 自分の殻をやぶって、自ら道をひらき、広い社会や世界に出よう 16	
Message 卒業後になりたい姿を思い描いて学ぶ 17	
日大生の必須情報 01 あなたの行動が大学を変える?! 「自主創造」を支援する全学的なプログラム 18	
Personal Page 01 能力診断チャートで、あなたの8つの能力を確認してみよう！ 20	
Personal Page 02 あなたなら、どんなミライに向かって何を学ぶ？ さあ、大学生生活を計画しよう！ 22	
Personal Page 03 あなたの成長記録 1年ごとに自分を振り返ろう！ 24	
日大生の必須情報 02 あなたのミライツクル 強力な進路サポート 25	
Column 日本大学の歴史 26	

第2章 スタディ・スキルズ	28
授業形式の特徴を理解しよう	28
大学にはいろいろな授業形式がある 28	
1 講義 29	
2 セミナール（演習） 30	
3 実験・実習・実技 30	
何を学ぶか、何の科目を選ぶかは、あなた次第	32
受ける授業と時間割は、自分が決める 32	
高校とは違う、大学ならではの学修方法と必要なスキル	33
1 ノートのつくり方 33	
2 論文とレポートの作成 36	
3 グループワークとディスカッション 38	
4 多様な価値観がふれあうグループワーク「ワールド・カフェ」 40	
Personal Page 04 ワールド・カフェで気づいたこと、今後に生かしたいことを記録しよう！ 41	
5 プレゼンテーション 42	
Column 学びをサポートする大学図書館 44	
日大生の必須情報 03 大学のサポートを上手に利用！ 大学生生活のリズムをつかもう 46	
Message 目的意識を持ち、能動的に学んでほしい 48	

履修や単位修得のための **知識編**

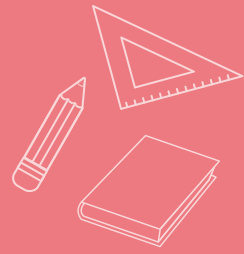
第1章 履修登録とシラバス	50
履修登録にはルールがある	50
1 履修の注意点 50	
2 シラバスの活用 51	
日大生の必須情報 04 こうやって見るんだ!? シラバスの見方について詳しく知ろう! 52	
第2章 成績・卒業要件	54
成績はどのように決まるの?	54
1 成績評価と単位 54	
2 授業や課題ごとに達成度を測る、ルーブリック評価 55	
3 予習・復習も単位のうち!? 単位修得に必要な学修時間 56	
4 厳正な成績評価のための基準（GPA 制度） 57	
5 授業改善を促す学生の“声” 58	
卒業への道のり	59
1 卒業要件 59	
2 さらに専門分野を追究するなら 59	
第3章 学修環境の充実のために	60
快適な学修環境のための心得や大学のサポート	60
1 学修の不安や悩みは相談しよう 60	
2 大人として、行動に責任を持とう 61	
3 人権侵害の被害や悩みはかかえ込まないで! 62	

日本大学における効果的な 学修のための

ガイド編



ミライツクル 日本大学での学び



あなたのミライをひらく 「自主創造できる人」を目指そう！

大学で学ぶということ

❖ 目的を持って、多くの経験を積み重ねよう

多くの人にとっては、日本大学の在学期間が、社会に出る前の最後の学びの期間となることでしょう。「教わる」「覚える」が多かった高校までと違い、大学は自ら「調べる」「考える」「答えを見いだす」ことが主体になります。皆さんが自立した大人で、本当の意味での「学び」ができると認めるからこそ、こうした大学の学修*が成り立ちます。「自ら考え、答えを見いだす」のは社会でも同じ。大学で学ぶことはつまり、将来の準備期間であるともいえるのです。

言い換えれば、単に専門の知識や技能を身に付けるだけでは不十分ということ。例えばあなたが建築業界を志望しているとします。そこでは、建築士資格などの建築に関わる専門的な知識や技能が必要ですが、「仕事」の場面を考えれば、顧客のニーズを正確に把握することも大切です。また、経済の動向や地域によって異なる価値観・文化、建設による環境問題への影響など、社会全体にも目を向けていなければ真に求められる人材になることはできないでしょう。社会との結びつきを理解し、実践力を身に付けていくためには、単に教科書を覚えるだけで

学修

大学で“学び”，教育課程（規定のカリキュラムや技能を学ぶ課程）を“修める”こと。学部等ごとに定められた「教育研究上の目的」を達成することでもある。知識や経験を蓄える「学習」とは区別して用いられる。

は不十分です。友人や教員と様々な事柄について議論をし、多様な価値観を受け入れる能力を、日々の授業の積み重ねにより身に付け、自らの“キャリア”とする必要があります。日本大学ではそのような積み重ねの教育を重視した授業を編成・提供し、学生生活をサポートします。

まずは、どのような自分になり、そのためにはどのような経験を積みばいいのか考えてみましょう。これから何を、どう学んでいくか、方向性が見えてくるはずです。

❖ 批判的なものの見方を身に付けよう

「自ら学ぶ*」ということとは、「答えのない問い」に対して自ら考え抜くことでもあります。

大学の学びでは、批判的にものを見ることが重要です。それは「非難する」ことではなく、どのような事実や根拠に基づいているのかを確かめ、他者の意見を多面的・客観的に理解した上で、自らの考えを立てること。そのためには、他者の意見に耳を傾ける、得た情報を冷静に整理する、自分の意見を持つ姿勢が必要です。

❖ 多様な友人との出会いを楽しもう

日本大学には全国・海外から、様々な目的や意志を持った学生が集まっています。様々な授業やクラブ・サークルなどで、多くの人々と出会うことでしょう。自分とは異なる意見や価値観に出会い、あなたの考えが変化するかもしれません。多くの友人をつくり、学生生活を楽しむことも自主創造の一つ。学部・学科の外に出て、行動を広げていきましょう。



「自ら学ぶ」 「自ら考える」 「自ら道をひらく」

日本大学教育憲章 (P.9) に明示された、自主創造のための3つの構成要素のこと。これらを支える8つの能力を身に付けられるように、本学の教育は行われている。



「自主創造」のための道を示す 日本大学教育憲章

1 「自主創造」とは、何か

皆さんの中に、日本大学が掲げる「自主創造」という言葉の意味を知っている人はいるでしょうか？

平成 19（2007）年度に日本大学の教育理念を「自主創造」と決めました。これは 130 年を超えてなお、創立時の理念を現代に受け継ぐものでもあります。その理由は、この不透明な時代にこそ「自主創造」を発揮できる人材が求められていると考えるからです。どのような局面でも挑み、乗り越え、あるべき自分を創ろうとする精神や行動こそが「自主創造」。皆さんの長い人生に必要な力であり、日本大学で一番に学んでほしいことでもあります。さあ、皆さんの未来を切りひらくために、自主創造の基礎をつくっていきましょう。

2 あなたのミライに必要な 8 つの能力を示した「日本大学教育憲章」

どのようにすれば「自主創造」できるようになるのでしょうか。それは日本大学教育憲章の中に答えがあります。日本大学の卒業生が在学中そして卒業後も発展させていく能力を「日本大学マインド」として定義、そこに必要となる「自主創造」を実現するための 8 つの能力を明示しています。日本大学教育憲章は、皆さんにとっては目標であり、身に付けてほしい力である一方、日本大学が皆さんに提供する教育の約束でもあります。ここで示す力を皆さんが学修によって身に付けられるように、全学・学部・学科単位で毎年カリキュラムや授業の改善*を図っています。よりよい学修のために、共に歩みましょう。

授業の改善

日本大学では、教育内容・方法などをはじめとする研究や改善活動を大学全体として組織的に行う FD (Faculty Development) に積極的に取り組んでいる。教職員を中心とした活動のほか、学生視点で大学教育について話し合う場「日本大学 学生 FD CHAmMiT (P.18)」も開催し、活性化を図っている。

■ 日本大学教育憲章 概念図

日本大学マインド

◆ **日本の特質を理解し伝える力**

日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる

◆ **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる

◆ **社会に貢献する姿勢**

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる

自主創造

自ら学ぶ

- 1 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる
- 2 世界の現状を理解し、説明する力**
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる

自ら考える

- 3 論理的・批判的思考力**
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる
- 4 問題発見・解決力**
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる

自ら道をひらく

- 5 挑戦力**
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる
- 6 コミュニケーション力**
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる
- 7 リーダーシップ・協働力**
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる
- 8 省察力**
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる

3つのマインドを実現するための
8つの能力

自主創造を支える
3つの構成要素



社会で生きる学びのために

**1 日本大学の授業科目は、知識とそれを活用する能力を
組み合わせたハイブリッド型が基本！**

**1 科目の中で、講義とグループワークを代表とした
体験型学習を組み合わせた授業を展開。**

各科目の授業は、「知識」を
活用するための「能力形成」を
踏まえて設計されています

ハイブリッド型授業



単なる表面的な知識ではなく、生きた知識とそれを活用する能力を、日ごろの授業を通じて自然に身に付けていくのが日本大学の教育です。

ハイブリッド型授業の 成長ポイント 1

1 科目の中で、実践的な能力も磨かれていく

●一般的な科目の授業は…

科目 A 講義型授業 (知識重視)



知識を得る科目と、
能力開発の科目と、
意識して両方履修
しなければならない…

科目 B グループワークなどの
体験型授業



●日本大学の授業だと…

科目 A ハイブリッド型授業



履修する科目ごとに、
知識とそれを活用する能力
が同時に身に付き、
蓄積される！

科目 B ハイブリッド型授業



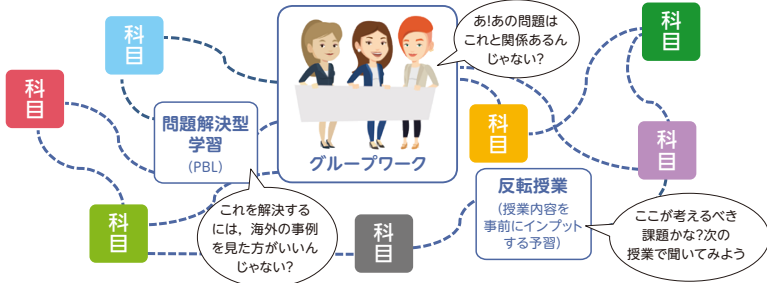
ハイブリッド型授業の
成長ポイント2

知識と知識をつなげる、
「知識を運用する力」が育つ

一般的な講義型授業（知識重視）では、科目で得た知識が孤立しがち…



グループワークを代表とした体験型授業を
組み込んだハイブリッド型授業（知識を活用する能力を重視）

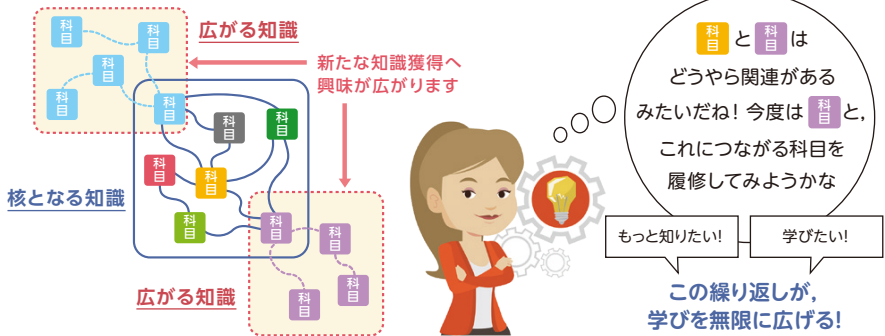


「体験型」の授業形態では、活発な意見交換などによる「知識を活用する能力」獲得によって、知識が「定着」し、しかも科目間の知識がつながる。

➔ 知識を「運用する力」も身に付く！

ハイブリッド型授業の
成長ポイント3

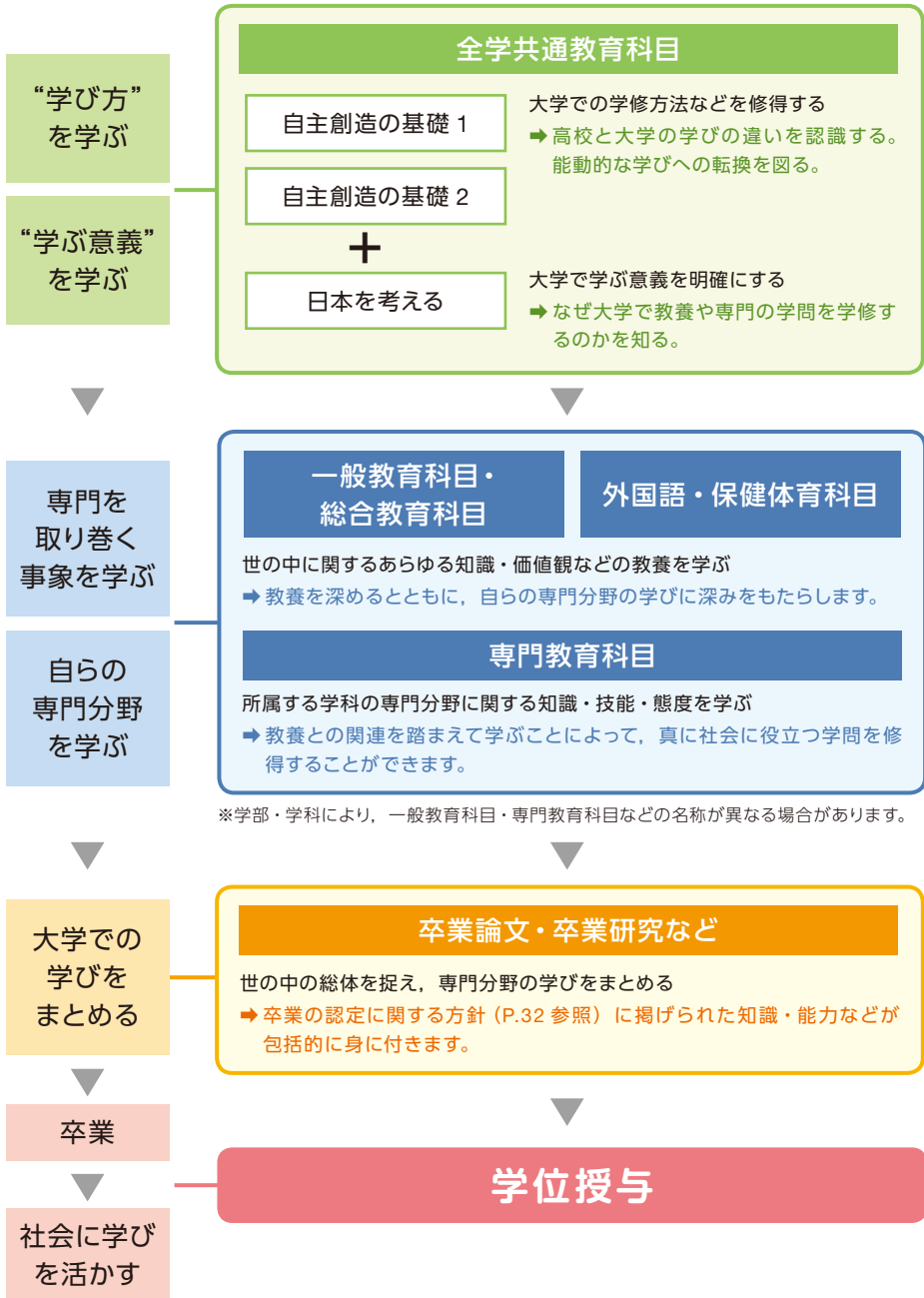
知識を「自分のものにする」
ための学びにできる！



関心を広げてみると学びがおもしろい。次に学びたいこと、学ぶべきことなど「学びのキーワード」が見つかる。

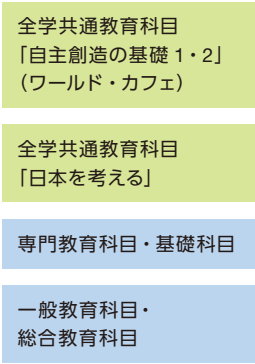
➔ あなたオリジナルの学びが実現可能！

2 日本大学の学びの流れと全体像

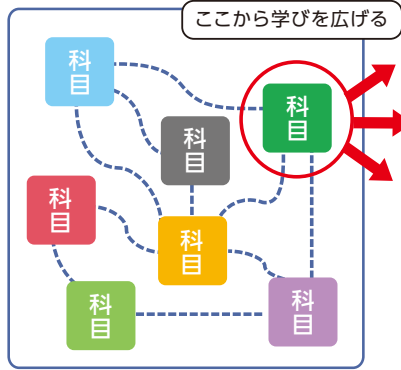


3 授業から様々な視点を得て、もっとアクティブに学ぼう!

日本大学では、



学びの基盤となる知識群



などの基礎的知識・能力を培う科目を用意

全学共通教育科目や各学部の基礎科目で“学びのキーワード”を見つけ、自ら学びの世界を広げていこう!

結論!

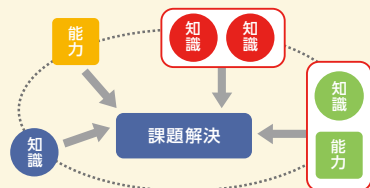


日本大学の授業は、
「社会で生きるチカラ」を育てる

❖ 社会の課題に向き合う、使える知識と能力

学問は、自然、社会や人が生きる暮らしから生まれたものであり、大学での学びはすでに社会に直結しているのです。しかしながら、社会に出ると大学で学ぶよりもさらに複雑で、正解のない課題があふれています。ですから幅広い知識・能力、または体系化された知識・能力をフルに活用して、課題に向き合うことが求められます。

そのため、日本大学では“社会で使える知識・能力”を身に付けられるように、ハイブリッド型授業を実施しています。





8つの能力を育てるために、 様々な学び・体験の場を活用しよう

1 自ら学び、知識を蓄え、視野を広げよう

❖ 体験型学修で、生きた知識を吸収する

8つの能力は、机に向かって書物を読み、講義を受けるだけでは得られません。P.12で示した体系的で多様な科目を履修するとともに、アクティブ・ラーニング*、フィールドワーク*などの体験型学修によって生きた知識も蓄え、より多くのものを見て吸収しましょう。

❖ 専門科目だけじゃない、教養科目の重要性

大学では専門教育科目だけでなく、教養科目*（一般教育科目・総合教育科目や外国語科目など）を広く学びます。学年を追うごとに専門教育科目が増えていきますが、その時に社会のしくみや国際情勢など、より多くの知識や視点を得るために教養が必要となります。「関心のあることだけを学びたい!」と思う人もいます。関心のあることをもっと深く広く学ぶためにも、社会で豊かに生きていくためにも、教養を身に付けることは重要なのです。

❖ 相互履修制度を活用しよう

「相互履修制度」は他学部・他学科の授業を受講できる制度。例えば文理学部で化学を学ぶ学生が、生物資源科学部で食品と化学物質の関係について学ぶなど、自分の専門領域のフィールドを広げ、応用力を養うことができます。また他学部のキャンパスで受講するため、他学部の学生や教員と交流する機会にもなります。多様な学部がある日本大学ならではの、学びのスケールと充実感が得られることでしょう。

アクティブ・ラーニング

反転授業、グループワークなどを代表例とした能動的な学修の総称。主体的に取り組み、他者と対話し学ぶことによって、知識だけではなく、社会的能力や経験などの汎用的能力の向上に有効とされている。

フィールドワーク

研究に関連する場所や調査対象がいる場所に実際に赴き、インタビューやアンケート、資料収集などを行う調査法のこと。

教養科目

「全学共通教育科目」「一般教育科目または総合教育科目」「外国語・保健体育科目」を指す（P.12参照）。卒業するためには、学部・学科の専門分野である「専門教育科目」の他に、これらの科目群からの履修も必要となる。これらの科目は専門分野を学ぶ上でも、多角的な視点を得るためにも重要である。

※「一般教育科目」「総合教育科目」は同目的の科目群。学部によって名称が異なる場合もある。

2 自ら考える力、 切りひらく力の土台を築く

❖ 全学共通教育科目「自主創造の基礎」

全学部共通で1年次に開講される科目です。「自主」性を育て、「創造」性へのステップとなる、「学び方を学ぶ」授業が展開されます。グループワークやディスカッションなど能動的な学修スタイルで、「自ら考える」ことを習練するとともに、学びに取り組む姿勢、他者と協働するスキルを学びます。大学での学び方の基礎が身に付き、その後の課題や自分の能力を発見する機会になることでしょう。

❖ 1年次生約16,000人が集う、「ワールド・カフェ」

「自主創造の基礎」の授業の中の1つで行われるのが、「日本大学ワールド・カフェ」です。一番のポイントは、全学部の1年次生が集い、語らう場であること。多くの学生から「刺激を受けた」という声が届いています。

➡ ワールド・カフェについては、P.40で詳しく

❖ 「自ら道をひらく」一歩になる、 「自主創造プロジェクト」

もっと学生の興味や活動を広げる機会を提供しようと、令和元（2019）年にスタートした「日本大学自主創造プロジェクト」。学生の自主的な“やってみたい!”プロジェクトについて応募・選考*を経て大学が補助金を支給、バックアップをします。自らの力で、文化の進展やSDGs*に取り組みんだり、専門分野の学修に生かせる形にするなど、あなたが成長する一歩になるはずです。

➡ 自主創造プロジェクトについては、P.19で詳しく

自主創造プロジェクトの 応募・選考

日本大学の学生で、2学部以上かつ5名以上のグループが応募条件。選考の上、10～30万円の補助金が給付される（P.19参照）。

SDGs

2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに達成すべき、持続可能な世界を実現するための国際目標のこと。貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会などの諸問題に対し、17のゴール・169のターゲットが設定されている。

3 自分の殻をやぶって、自ら道をひらき、広い社会や世界に出よう

❖ 学生の視点から、大学での学びを考える 「日本大学 学生FD CHAmmit」

日本大学が推進する大学の授業をより良くするためのFD (Faculty Development) 活動の一つに学生が自ら企画・運営する「CHAmmit」があります。大学教育に対して自らの声を届けることや、仲間と共に行う年間を通じた活動は、大きな達成感と自信につながります。

▶「日本大学 学生FD CHAmmit」については、P.18で詳しく

❖ 海外留学で、経験や語学力を高める

本学には様々な留学プログラム*があり、多くの場合は単位として認定されます。海外留学は、多様な文化や価値観にふれる貴重な機会です。海外留学は自主創造そのものです。

❖ 職業選択を考える機会となるインターンシップ

学生のうちに、企業で働く体験ができる制度。希望する業種の職場で実習をすることにより、実際の仕事の内容や「働く」ことへの理解が深められるメリットがあります。学びのモチベーションにもつながります。

❖ 地域貢献活動・クラブ&サークル

学びを地域に還元する活動やボランティア、クラブ・サークルなどの課外活動も、社会生活を知り、対人関係を築くきっかけに。経験は社会に出た後の力になります。



留学プログラム

アメリカ、カナダ、イギリス、韓国、中国など33か国1地域128大学など(令和2年1月現在)と学術交流協定等を結び、交換留学を行っている。その他、短期海外研修、認定留学、海外ボランティアなど多様なプログラムや奨学金を含めたサポートがある。自分にどんなプログラムが合うか、相談して欲しい。(窓口：学務部国際交流課)

インターンシップ

企業実習。在学中に企業などで業務の実習を体験すること。希望する職業の内容を実際に理解し、学生と就業先との認識の相違を解消して、自らのキャリアを描けるという利点がある。

Message
メッセージ卒業後になりたい
姿を思い描いて学ぶ

医学部3年 山本 尚子



幼少期から医師という職業に漠然とした憧れを抱いていました。医師になる夢が、より明確な目標へと変わったのは、親族が認知症を発症し、その介護や治療に関わる医療従事者と接するなかで、自分も認知症を患う患者さんや家族のため、臨床や研究に従事したいと思ったからです。

医学部に入学後は、「医学を極めるにあたり、広い視野を持って何事にも挑戦しよう」と改めて決心し、日々の授業は当然のこと、部活などの課外活動へも積極的に参加するよう心掛けています。

英語の課外活動もその一つです。以前から留学に興味があったので、1年次から毎週、ネイティブスピーカーの講師による、英会話と外部検定試験（IELTS）対策の講座に参加しています。講師の先生に4技能の指導を仰ぐほか、留学するには何が必要か、日常生活における自学自習のアドバイスも受けていました。

そうした活動がご縁を引き寄せたのかもしれませんが、2年生の夏に英語の先生から、本学を卒業され、現在米国の大学関連病院で医師として働いていらっしゃる先生を紹介していただき、その先生の下で1週間研修させていただく機会を得ました。米国では、先生のご専門である移植手術を見学させていただいたり、先生の研究室で学ばれている学生の方や若手医師に混じって研究の討議に参加させていただいたりしました。この経験を通して、知識量はもとより、学びへの意欲、そして新しい事実を追究する貪欲さに世界との大きな差を感じ、ゆくゆくは彼らと同じフィールドで、仕事に情熱を注げる医師になりたいと強く思いました。

帰国後は英語の教科書を併用するなど、世界の基礎医学における常識を意識しながら、毎日の学習に努めるようになりました。また平日は授業と部活で、放課後に十分な学修時間がとれないため、始業前や空いた時間を有効活用して予習・復習に励みつつ、興味のある医学書や論文を英語で読むようにしています。今は学部の試験や国家資格のための勉強が最優先ですが、卒業後にどんな医療人になりたいか、その姿を見据えて、これからも学生生活に邁進していきたいと思えます。

あなたの行動が大学を変える?! 「自主創造」を支援する全学的なプログラム

日本大学 学生 FD CHAmiT

「CHAmiT」は、「CHAT (チャット)」のように、気軽に話そうをコンセプトにして、全学部から学生が参加し、教員、職員も加わって、所属やキャンパス、立場を超え垣根なく、大学の教育や授業について意見交換する、学生主体のイベントです。



CHAmiTに参加するには？

CHAmiTの企画・運営学生スタッフと、イベント当日の参加者を公募しています。詳しくは、日本大学FD推進センターのホームページを確認してください。



詳しくはこちらから

学生の声を届ける教育改善の取組 ～学生FD活動～



〈文理学部〉学生発案型授業（プロジェクト教育科目）が企画され、「人間関係とこころの社会学ー“生きづらさ”について話し合う」というテーマで、複数の教員によるオムニバス形式の授業を実施しました。

〈生産工学部〉しゃべり場「他学科って何してる？」など、多様なイベントの開催とともに、ポスター、学部ホームページ、学部Twitter、学部広報誌「SPRING」を通じて活動内容を発信しています。



日大生のやってみたいを実現するプロジェクト

－日本大学自主創造プロジェクト－

❖ 自主創造プロジェクトとは？

みなさんが日頃、他の学部の人と協力してあんなことをしてみたい、こんなことをしてみたいと思うことはありませんか。何かしたくてもお金も必要、実際行動に移すにはいろいろと障害があり、実現が難しいのではないのでしょうか。

日本大学ではそんな皆さんの夢をサポートします！

教育理念「自主創造」の実現に向けて、「自ら学ぶ、自ら考える、自ら道をひらく」能力を実践の場を通じて育む機会を与えています。多様性に対する気づきを与え、皆さんの学修をより深化させることを目的として様々な取組を支援しています。令和元年度は、60プロジェクトの応募があり、33のプロジェクトが採択。採択されたプロジェクトには10～30万円程度、最高100万円（プロジェクト内容等による）の補助金が支給されます。 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止としました。



富士山清掃活動とアート製作を通じた環境保全推進活動

❖ どんなことができるの？

プロジェクト名	参加学部
雪かき・雪下ろしプロジェクト	法・経済・危機管理・生産工
卒業生と新生を繋ぐ、家具バンク	商・生産工
防災教育関連の絵本を作ろう！	芸術・生産工
日大出身の社長に突撃取材～学生のあれこれに答えて下さい～	文理・危機管理
日本の世界文化・自然遺産の環境改善	生産工・生物資源科

自主創造プロジェクトに応募するには？

日本大学ホームページ記載の内容を確認、「応募資格」などを満たせば、どなたでも応募可能です。募集時期は毎年1月～4月ごろです。詳しくは、日本大学ホームページを確認してください。

※募集内容は変更となることがあります。



詳しくはこちらから



能力診断チャートで、
あなたの8つの能力を
確認してみよう！

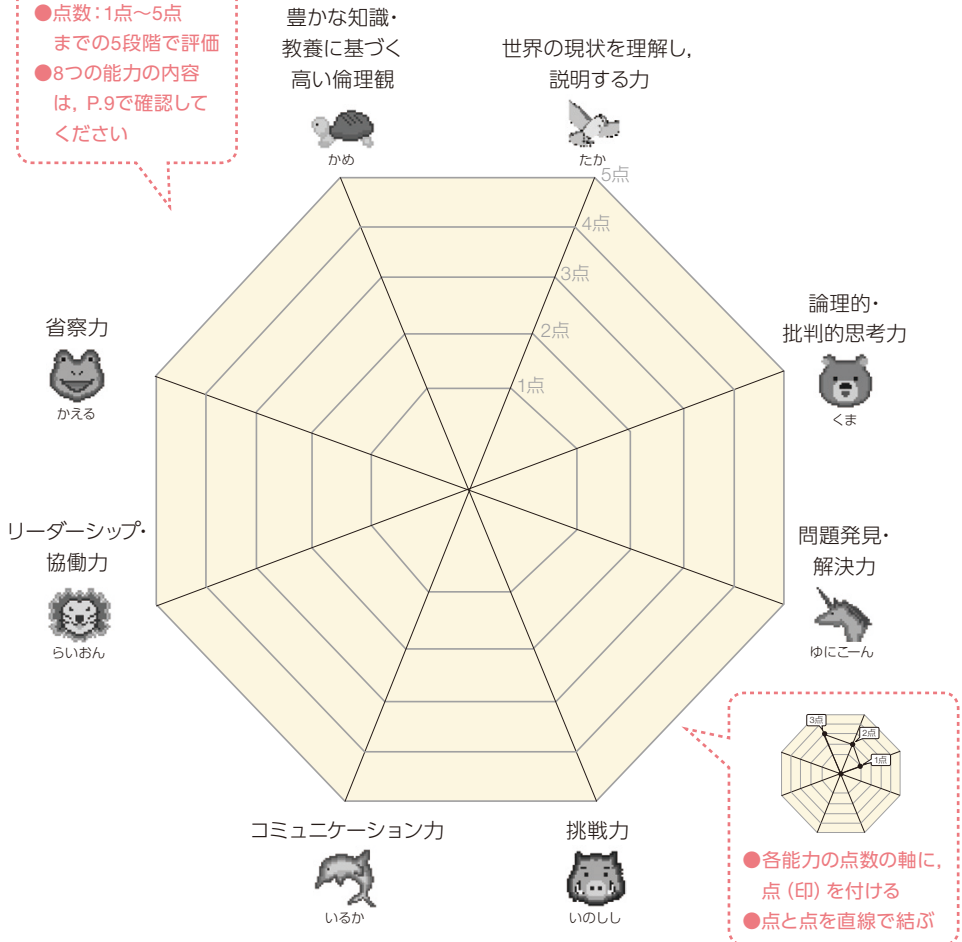


■ 今のあなたの8つの能力は何点？ 進級などのタイミングで、
再チェックすれば、あなたの努力や学びの成果が目に見える！

8つの能力	1回目(入学時) の点数	2回目 の点数	3回目 の点数	4回目 の点数
豊かな知識・教養に 基づく高い倫理観  かめ	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
世界の現状を理解し、 説明する力  たか	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
論理的・批判的思考力  くま	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
問題発見・解決力  ゆにこーん	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
挑戦力  いのしし	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
コミュニケーション力  いるか	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
リーダーシップ・ 協働力  らいおん	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5
省察力  かえる	/ 5	/ 5	/ 5	/ 5

■ 自分の得意なところ、苦手なところ、伸ばしたいところを知る上でグラフ化してみよう！

- 点数：1点～5点
までの5段階で評価
- 8つの能力の内容は、P.9で確認してください



左表のチェックした回ごとの点数を、上の能力診断チャートに書き写してみよう！
 筆記具の色や点 (印) の形を★, ■, ◇などに変えて書き込めば、チェックを重ねて伸びたあなたの能力が一目瞭然！

※この能力診断チャートは、「日本大学 学生FD CHAmmit2018」で考案されたものをヒントに作成しています。動物は、各能力を感覚的に捉え、あてはめたもの。これも学生のアイデアです。



あなたなら、どんなミライに
向かって何を学ぶ？
さあ、大学生活を計画しよう！



■ 「自主創造」できる人を目指して、目標を書いてみよう

1 P.20, 21 を踏まえて、8つの能力のうち高い能力、
低い能力を挙げてみよう（複数可）

2 **1** についてなぜそうなのか、自分自身で理由を分析してみよう

3 自身の能力のうち、どの能力を伸ばしたいか考えてみよう
（伸ばすのは長所？ それとも短所？）

4 学びの計画 (どんなことを学び、研究する?)

5 活動の計画 (どんなことに挑戦する?)

6 卒業後の目標・職業などどんな人間になりたい? (何でも書いてみよう!)



あなたの成長記録

1年ごとに自分を振り返ろう！



■ P.23の計画やあなたの目標を振り返って、
達成できたこと、成長できたことを書き留めよう

1 年次	
2 年次	
3 年次	
4 年次	
5・6 年次 (6年制 学部のみ)	

日大生の 必 須 情 報 02



あなたのミライツクル 強力な進路サポート

あなたの理想の人生とは？

皆さんの人生は卒業後の方が長い道程です。皆さんは、自分自身が今後の人生をどのように生きていくのか想像したことがありますか。これを疎かにして、卒業した後に「こんなはずじゃなかった」という声を聞くことがよくあります。

今後の人生なんて考えたこともない！という方、大丈夫です。大学にいる間に自分の軸となるものを見つけていきましょう！そのためのサポート体制が日本大学にはあります。

ここから始めよう！

まずは、卒業した後の自分を想像することから始めてみましょう。皆さんが「何をやりたいか」「何になりたいか」という軸となるものを自分自身で考えることが一番重要です。そして、将来なりたい自分になるために、一つでも良いので「自分はこれをがんばった!」「自分はこれに力を注いだ!」というエピソードが話せるように学校生活を充実させましょう。この経験は、就職活動の際に皆さんの武器になるとともに、社会人になった時に必ず役に立ちます。

約 120 万人の頼れる味方がついている

日本大学の卒業生は約 120 万人いて、数々の先輩たちが社会で活躍しています。

また、専任の就職支援スタッフ数も全国の大学でもトップクラスで、各学部との連携により強力な支援体制を整えています。

これらの卒業生やスタッフは、皆さんが未来に向き合うとき、味方になる人たちです。

豊富な就職情報「NU 就職ナビ」

日本大学の学生だけが利用できる就職情報システム「NU 就職ナビ」があります。毎年1万件以上の求人情報の配信、約8万件の企業情報やOB・OG情報、先輩たちの就職活動の記録など、就職活動に役立つ情報が掲載されています。

他にも、公務員対策講座や資格取得講座など、キャリアアップを図る各種プログラムも用意しています。学部ごとに数多くの講座やプログラムを開催していますので、積極的に利用し、キャリア・スキルアップを目指しましょう。



日本大学の歴史



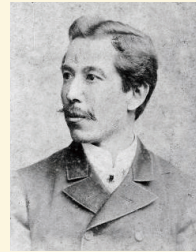
❖ 日本法律学校として設立

日本大学の前身である日本法律学校は、明治22（1889）年10月4日に創立されました。大日本帝国憲法が発布され、また欧米の近代法を取り入れた刑法・民法・商法などの諸法典も整備されつつある時期でした。

司法大臣の山田^{あきよし}顕義は、それまでの欧米諸国の法律を学ぶことが主流の法学教育に疑問を持ち、日本の伝統・慣習・文化を踏まえた日本の法律を教育する学校構想を抱いていました。

同時期、宮崎道三郎・金子堅太郎などの若き法律学者たちも、日本法学教育の必要性を認識し、山田とは別に日本法律学校設立構想を進めていました。同様の構想を進めていることを知った山田は、宮崎らを全面的に支援し、日本法律学校は創立されました。

現在、日本大学では、創立に関わった法律学者など11名を創立者とし、彼らを全面的に支援した山田顕義を学祖として顕彰しています。



設立者総代
宮崎 道三郎



初代校長
金子 堅太郎

❖ 学祖 初代司法大臣 山田顕義の活躍

山田顕義は、弘化元（1844）年、長門国萩（現山口県萩市）で、山田顕行の長男として誕生しました。吉田松陰の松下村塾に入門し、幕末から明治初年にかけては、軍人としての才能を発揮します。特に戊辰戦争では、新政府軍を率いて、東北諸藩および箱館五稜郭の旧幕府軍平定に功績を挙げました。

明治4（1871）年、岩倉使節団に理事官として随行し、欧米諸国の軍事制度を調査研究します。

帰国後は、司法省に勤務して近代法整備に尽力しました。その後、参議兼工部卿、内務卿、司法卿を歴任し、明治18（1885）年、内閣制度発足に伴い、初代司法大臣に就任しました。



学祖 山田顕義

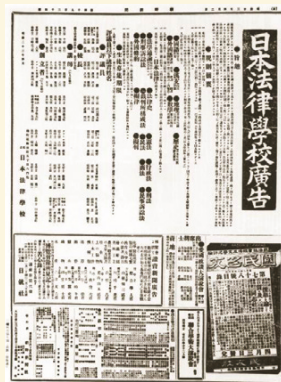
教育面では、明治22(1889)年には皇典講究所所長に就任し、同所内に日本法律学校を創立しました。

明治25(1892)年11月、山口亀山における旧藩主毛利敬親等銅像起工式出席の帰路、生野銀山(現兵庫県朝来市生野町)を視察中、49歳で急逝しました。

❖ 創立の目的

日本法律学校の創立目的は「日本法律学校設立主意書」に記載されています。これを要約すると、(1)日本の法律は新旧を問わず学ぶ、(2)海外の法律を参考として長所を取り入れる、(3)日本法学という学問を提唱するという3点です。

欧米法教育が主流な時代にあって、日本の法律を教育する学校の誕生は、大いに独自性を発揮することとなりました。



日本法律学校広告

❖ 千代田区に校舎建設

日本法律学校開校当初は、飯田町(現東京都千代田区飯田橋)にあった皇典講究所の一室を借りて授業が開始されました。明治23(1890)年には國學院(現國學院大學)も同所に創立されたため、昼は國學院、夜は日本法律学校が同じ場所で授業を行いました。



明治期の校舎

明治29(1896)年、日本法律学校は神田区三崎町(現千代田区神田三崎町)に初の独立校舎を取得しました。これが現在の法学部本館のある場所です。

❖ 日本法律学校から日本大学へ

明治36(1903)年、日本法律学校は、校名を日本大学として大学組織に改め、翌37(1904)年、専門学校令による認可を受けました。

大正9(1920)年、大学令による大学となり、本学は総合大学への道を歩むこととなります。大正12(1923)年の関東大震災では全施設が壊滅的な被害を受けましたが、全学一丸となって復興を成し遂げ、人文・社会・芸術・自然・医歯系の広範囲に及ぶ教育組織を整備しました。

(企画広報部広報課)

スタディ・スキルズ



授業形式の特徴を理解しよう

大学にはいろいろな授業形式がある

形式	クラス	特徴
1 講義*	少人数～ 大人数	教員が教壇に立って、専門的な理論や学説などを話す。
2 ゼミナール (演習)	少人数	課題や研究テーマについて各自調べてまとめたことを発表し、それらについてみんなで議論する。3・4年次になると、この形式が多くなる。
3 実験・実習・ 実技	少人数	講義などで学んだ理論や技術を、実地で行ったり、仮説の検証のために調査や実験をしたりする授業のこと。実施後は成果をレポートや作品として提出する。

講義のスタイル

講義の進め方は教員によって様々。板書をする教員、レジュメ（研究報告や講義の概論などを手短かにまとめたもの）を配付して板書をしない教員、画像や資料を投影して授業を行う教員もいる。講義のスタイルに応じて、授業の受け方やノートの取り方を工夫する必要がある。最近では、講義科目においても一部にワークを取り入れるなど、知識定着を深めるためにアクティブ・ラーニングを取り入れる場合が増えている。



1 講義

❖ 講義に臨む姿勢

高校までの授業と違い、大学の講義は教員が研究・専門とする分野の様々な理論や学説*などを解説することが中心です。ここでは、教員自身の研究成果や新しい学説も聞くことができます。

つまり講義は、板書を写して“覚える”ものではありません。古くからの学説と新しい学説の論旨を自分なりに分析し、その後は自分自身の研究テーマを見つけていくためのものです。考えをめぐらせながら、講義をしっかりと聞くことによって、自らの頭で考え、自らの言葉で発言し、自らが物事を判断する基礎となる知識が身に付きます。

❖ 欠席は命取り

どの授業も「出席」が前提条件。高校までの授業と違い、教科書どおりに進むわけではありません。教員は、講義の内容を15週*のストーリーで組み立てています。1回(1コマ*)休めば、以降の授業はわからないまま、半期が終わってしまいかねません。授業に取り組む基本的な姿勢として、授業開始時刻に遅刻しないことも重要です。教員や他の学生に迷惑がかかるばかりか、欠席したのと同じように十分な学修効果が見込めなくなってしまう。

❖ 予習・復習も単位修得の条件

大学の授業は、1単位を「45時間の学修を必要とする内容」と定められています。この時間には、大学での授業のほかに予習・復習の時間も含まれています。つまり、「大学生は自主的に学ぶもの」とみなされているわけです。学修を中心にして、課外活動や個人の予定は無理のない計画を立てるように心掛けましょう。

➡ 単位修得に必要な学修時間については、P.56で詳しく

学説

学問分野において、研究者が主張する考え方。

15 週

半期の授業は15回を標準に設計されている。週1回の授業を15回(週)行う形式が多い。

1 コマ

授業の数え方の単位。90分・1授業を1コマという。

2 ゼミナール（演習）

❖ ゼミナールとは

「ゼミナール（演習）」は、「ゼミ」と略されて呼ばれます。学生が特定のテーマについて研究し、発表や討論を通じて、主体的に学び、研究する姿勢を養う授業形式です。自分の研究発表だけでなく、ほかの学生の研究発表も聞き、質問や討論もするので、論理的に考えることや自分に関心のあるテーマ以外の知識も必要になります。それだけあなたの成長にもつながり、様々な学問的刺激を受けることでしょう。

❖ ゼミでの学び方

ゼミは、学生の主体性が尊重され、教員は多くの場合進行役や助言役を務めます。また少人数規模で行われるので、発言しやすい場です。教員から直接アドバイスや指導を受けられる機会でもあり、他の受講生とより深い交流*ができるのも大きな特色です。発表（特にパソコンを使ったプレゼンテーション）の仕方や討議の方法もゼミを通じて身に付けてください。

➡ プレゼンテーションの仕方については、P.42 で詳しく

他の受講生と より深い交流

ゼミは少人数単位で行われているため、教員と学生、学生間での親交が深まりやすい。また学年の違う学生（先輩・後輩）も参加しているので、学内の交友関係が広がる機会でもある。

3 実験・実習・実技

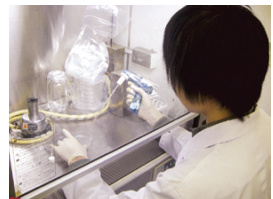
❖ 実験・実習・実技に取り組む姿勢

実験・実習・実技は、学生が講義などで学んだことを実践して、方法や技術を身に付けるための科目です。

特に実験・実習では、装置や機器の使用法の習熟とともに、分析・測定データがあらかじめ設定した仮説に照らして正しいかどうか、検証する狙いもあります。そのためこれまでの授業をしっかりと理解し、当日は何をやるのか予習しておくことが必要です。



実習の授業風景



実験の授業風景

❖ 実施後はすぐレポート！

実施後は、その日のうちに学んだ内容をレポートにまとめましょう。記憶が薄れてからでは、書けなくなってしまいます。予習→授業→レポートのクセ付けが大事です。

❖ グループ行動の意識

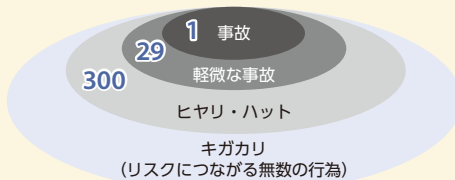
グループ単位で行われることも多くあります。グループの一員として役割を分担し、協力し合うことが重要です。

安全確認と安全対策の意識を忘れないで！

実験・実習・実技において、絶対に忘れてはならないのが、安全の確保です。「ハインリッヒ*の経験則」では、1件の重大な事故や災害の背後に、29件の比較的軽微な事故・災害、さらに300件のヒヤリ・ハット*が潜んでいるといえます。つまり、重大な事故や災害を未然に防ぐには、「キガカリ」の段階（下図参照）で対処しておくことが重要です。

指導教員やTA*、SA*の説明と指導には十分に耳を傾け、常に細心の注意を払いましょう。

■ ハインリッヒの経験則



【実習・実験の安全対策】

- 体調管理：体調不良や寝不足は事故の要因に
- 服装：実験では白衣，必要に応じて実験用保護メガネ・手袋などを着用
- 野外実習：雨，日差し，虫よけなどの対策，調査にふさわしい靴の着用。天候変動への注意

ハインリッヒ

Herbert William Heinrich
(1886-1962年)

アメリカの数学者。損害保険会社の技術・調査部で安全技師を務めた。労働災害の発生確率を統計的に解析し、1929年に発表した論文で経験則「ハインリッヒの法則」を提唱した。

ヒヤリ・ハット

幸い事故には至らなかったものの、一瞬ヒヤリとしたりハットとしたケースのこと。

TA = ティーチング・アシスタント

科目担当教員の指示により、学部の実験・実習等の教育補助を行う業務の総称、もしくはその担い手である大学院学生。

SA = スチューデント・アシスタント

学部学生が、コンピュータ科目や実験・実習・実技科目などのほか、多人数授業の補助、受講に際しての留学生への対応や、ハンディのある受講生などへの学習補佐を行う。



何を学ぶか、何の科目を選ぶかは、 あなた次第

受ける授業と時間割は、自分が決める

❖ 学びの目的・方向を決めて、バランスよく学ぼう

科目には、教養科目と専門科目の分類があり、さらに必ず単位*を修得しなければならない必修科目、選択受講する科目などの規定があります。学修成果を保証する卒業の認定に関する方針*に基づいて、こうした科目が体系的に設けられています。その中で、どの科目を履修*するかは自分で組み立てます。それには、どのような知識やスキルを身に付けたいのか、あなた自身が学びの目的と方向性を明確にしなければなりません。様々な授業形式を取り入れることはもちろんのこと、他領域へも関心を広げて知識を連結させていくような履修を心掛けましょう。

❖ 受ける授業は自分で「履修登録」

年度（学期）の始めに、各学部のウェブ登録画面などで履修したい科目を選択・登録します。学部で定めた単位数を規定の年次に修得するルールや、学期・学年単位で履修登録できる単位数の上限（CAP制）などもありますので、最初にルールを十分確認するようにしましょう。

❖ シラバスを活用しよう！

履修科目を選ぶ際は、学部のホームページなどに掲載しているシラバスを参照しましょう。シラバスでは、授業科目名、教員名、授業のテーマ、目的・到達目標、各回の授業内容や予習・復習などが確認できます。また成績の評価基準や方法も記載されています。コピーしてノートに貼ったり、携帯端末に取り込んだりしておくとう便利です。

➡ 履修登録方法とシラバスの活用法は P.50 以降で詳しく

単位

大学における学修量を測るために数値化した一定の基準。授業を受け、試験などで一定以上の成績を修めると修得できる。

卒業の認定に関する方針

ディプロマ・ポリシー（DP）のこと。所定の単位を修得するとともに、学修によって学生が卒業時に身に付けているべき資質や能力を明示したものの。自らの所属する学部のディプロマ・ポリシーを一度ホームページなどで確認しておくこと。

履修

単位を修得するために授業を受けて、知識・技術などを学ぶこと。



高校とは違う，大学ならではの学修方法と必要なスキル

1 ノートのつくり方

❖ 「板書を写す」よりも、「理解する」ノートに

中学・高校と違って，教員はノートに取るべき内容を細かく指示しません。しかし講義では様々な理論や学説などが解説されます。つまり教員が話すことを書き取ることも大切。講義の要点を自ら考え，重要なキーワードを逃さずノートに書いていきましょう*。

そのノートは，復習にも役立ちますし，試験やレポートの提出時などには授業を振り返るために不可欠なものになります。講義内容をしっかり理解できるようなノートの取り方が重要。自分なりに工夫してみましょう。

❖ 「ノートに書く」ことに気を取られてはダメ

「ノートに書く」行為に気を取られすぎると，教員の話が頭に入ってきません。その場で理解できたことはキーワードを書き留め，調べればわかることは書き込めるスペースを空けておくなどして，授業後に復習を兼ねて，ノートを完成させるようにしましょう。

❖ 試験やその後の学びに役立つノートづくりを意識

大学の講義は教科書に沿って行われるわけではありません。したがってノートが講義内容を振り返る一番の資料であるともいえます。定期試験*では，「ノートの持ち込み可」という場合もあります。それはノートに書いたキーとなる知識を基に考え方を問われたり，論ずる際に重要なヒントになるのです。知識だけのメモにせず，発想を豊かにするヒントをノートに記録することを心掛けることも，後の卒業論文・卒業研究，ひいては卒業後においても生かせる貴重な財産となるはずですよ。

教員がプリントを配る場合は

教員がプリントを配付し，授業を進める場合は，プリントに書き込み，ノート代わりにするのがよい。

定期試験

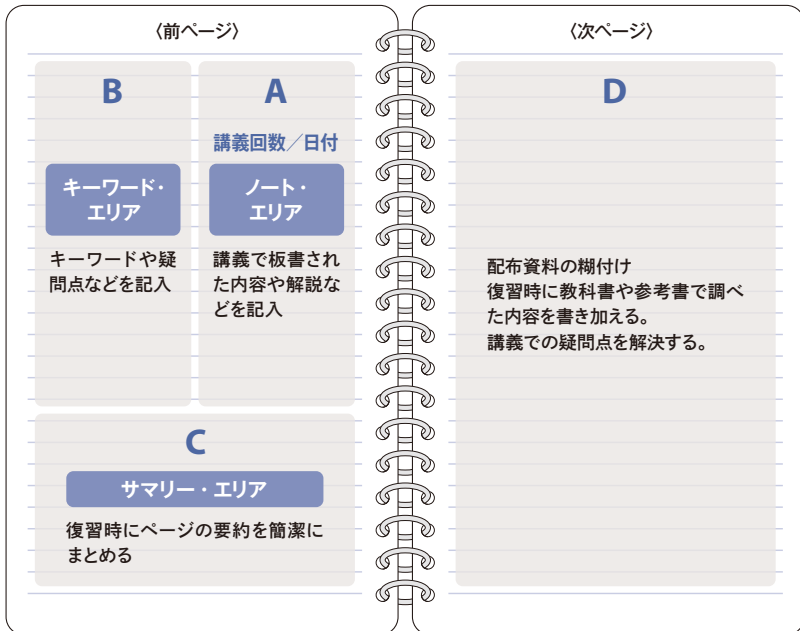
学期の最後に行う試験。進捗や理解度のチェックやフィードバックを目的とする試験とは異なり，科目合格判定を主目的とする総合的な試験のこと。

❖ 良いノートをつくる方法

良いノートをつくるための方法を一つ紹介します。授業中にはノートの上半分（または左ページ）だけを使い、下半分（または右ページ）には、後で整理し、まとめたものを記載するようにします。また、疑問点が出てきた場合には、後で教員に質問できるよう、そこにメモしておきます。

ノートの完成は、記憶が鮮明なその日のうちに済ませておくことがベストです。こうしておけば、復習にもなり、講義内容が整理された良いノートが残せるようになります。

■ ノートのレイアウト例（コーネルメソッド参考）



出典/日本大学法学部 佐渡友 哲教授・編著2011,『大学入門—政治と経済を学ぶマナーとスキル』北樹出版

ノートの参考例

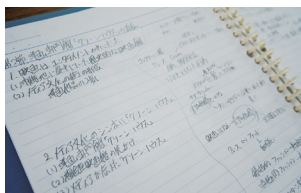
先輩のノートを見せてもらいました！

法学部 経営法学科 2年 大塚 拓海



プリントを配付する教員が多く、ノートを使うのは「知的財産法」など3科目という大塚さん。板書は黒、説明はオレンジ、重要事項は赤と、ぱっとわかりやすいよう色を分けて書くのがポイント。口頭で説明された重要事項も書き込んだノートやプリントは、毎日の復習や定期試験の学習に活用している。税理士を目指す大塚さんのノートの取り方を参考にしてみよう。

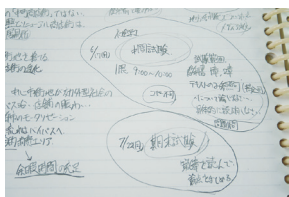
❖大塚さんは、ノートではなくルーズリーフを活用。3科目分を1冊のリング式バインダーにまとめている。



❖各科目の最初のページに付せんを貼り、科目の区別をしている。



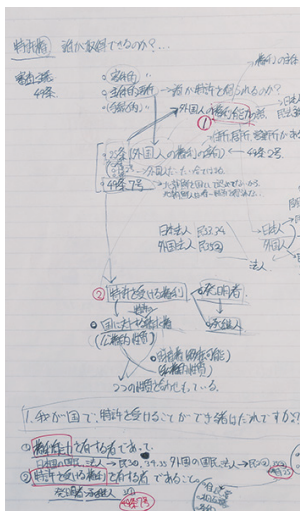
❖試験の日時や試験の内容もノートに記入。教員からの指示をきちんと押さえておくことは重要。



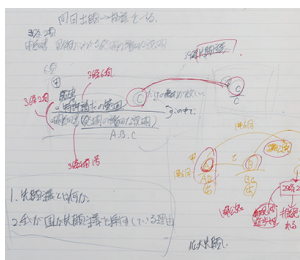
❖ボールペン、マーカー、定規など、ペンケースの中身はカラフル。



❖板書のほか、口頭での説明でも、重要だと思ったポイントを書き込む。最初はポイントをつかみきれず何でも書いていたが、今はポイントを絞って簡潔に書けるようになった。



❖関連のある項目は野線で結び、相關図のように示す。関連する内容や全体像が、わかりやすくまとめられている。



❖重要なポイントや補足事項は、色付きのペンを使って記入。

ノートのつくり方は多様です。大塚さんの工夫は、要点がわかりやすいノートのつくり方の代表例といえるでしょう。身近な先輩にノートを見せてもらうのも、良いノートづくりにも有効です。

2 論文とレポートの作成

❖ 論文とレポートの違い

大学の学びでは、論文やレポートを書くことが必ず求められます。

レポートは、授業の課題として教員からテーマが与えられ、そのテーマについて調べた内容をまとめ、その結果から自分の考えを述べます。一方、論文*は自らテーマを設定し、そのテーマの先行研究*を掘り下げ、新しい発見や理論を提示します。簡単にいうと、レポートは既知の事実をまとめたもの、論文は自分で獲得した情報を報告し、自らの理論を立てるものといえます。

	レポート	論文
※ 目安量	A4・2～4ページ程度 (1,000～5,000文字程度)	A4・50～75ページ程度 (30,000～60,000文字程度)

※ページ数や文字数は、学問分野により大きく異なることがあります。

❖ 論文・レポートを書くための情報収集

論文やレポートは、必ず先人の研究成果（先行研究）を参照した上で、自身の学修・研究内容を上乗せすることが原則です。先行研究やデータを調べるためには、大学図書館を利用して、書籍や論文、雑誌などの資料を読むのが良いでしょう。携帯端末からでも書籍や論文を検索し、読めるようになっています。

また、PCスキルや注釈・参考文献の挿入方法など「書き方」も身に付けていく必要があります。

❖ 絶対にしてはいけない「無断引用」

論文やレポートでは、他者の文章を「引用」することがありますが、守るべきルールがあります。ウェブ上の複数のページから文章をコピー＆ペーストしたり、出典（文献の出所）を明示せずにレポートを書くような行為は、あなたの「考える力」「書く力」の成長にならないばかりか、法に抵触することになるので絶対にしてはいけません。

論文

多くの学生に該当するのは卒業論文。ただし、論文ではなく「卒業制作」が卒業要件の学部もある。大学院に進学すると、修士課程・博士課程でも論文執筆がある。

先行研究

自分が論文を書こうとしている研究分野で、既に発表されている学術研究を指す。

論文とレポート の書き方

共通する書き方のポイント

指定された書式や体裁を守って作成する

- 「○○○字程度」「原稿用紙○枚程度」などの文字量を守る。
- 「縦書き／横書き」「表紙を付ける（付けない）」「ホチキスで留める」などの書式や体裁などが事前に示されるので、指定された条件を守って作成する。

客観的、論理的な文章表現

事実や論拠を伝える目的の文章なので、「～です」「～ます」などの話し言葉は使わない。「～である」調で統一する。

基本的な構成は、「序論」「本論」「結論」の3部構成

序論	本論	結論
「どのような問題に対し、どのような結論に至ったか」ということを記す。ここを読めば、筆者が何を考え、何を主張しているのかがわかるようにする。	自分の主張に沿って証拠を積み上げていく部分。先行研究を踏まえて、自分で調べた資料や、調査結果、参考文献などで構成する。	積み上げた証拠から、結論をまとめる。論文の場合は、自説の論証をする。

先行研究を踏まえる

必ず先人の研究成果（先行研究）を参照した上で、自分の研究・調査など客観的な事実を根拠にして、主張や理論を展開する。

参考文献リストを付ける

引用や参考にした文献は、最後にリストとしてまとめて記載する。書籍ならば、①著者名、②発行年、③書名、④訳者名、⑤出版社名の順に記す。

例：日本太郎（2019年）『ミライツツクル』▲▲出版

提出時のマナー（提出前にチェックしよう）

- 名前、学生番号、所属、授業科目名などは書かれているか？
- 提出期限、提出方法は守れているか？
- 手元に保管するために、コピーやデータのバックアップはしたか？
- 誤字、脱字などはないか？
- ページ番号は入っているか？
- ホチキスで留めたか？

3 グループワークとディスカッション

❖ グループワークとは？ ディスカッションとは？

グループワークは、授業で与えられた課題に対して、数人のグループで話し合い、課題への答えを導き出し、最後にはグループ発表に至る学修方法です。日本大学では授業の中で、導入されています。

ディスカッションは、問題・課題についての意見やアイデアを出し合い、討論や協議するものです。グループワークの過程でも、このディスカッションを頻繁に行います。お互いの意見を出し合い、考え合うことによって、問題・課題の解決策へのアイデアも広がり、実践的な学びになります。

ディスカッションは、パネル・ディスカッション*、ディベート*など、前述とは違う手法で行われる場合もあります。いずれにしても他の学生の意見を尊重し、相手の人格を傷つけないことなどが原則です。意見を主張する際には、正しい論拠と論理が求められます。

❖ この学修スタイルで何をえられるのか

グループワークやディスカッションでは、自分とは違った発想や反対意見に出会い、視野を広げることができます。また「自分の意見を言う」姿勢と、他者が理解しやすいように「考えて話す」という力が身に付きます。

「話すのが苦手」と思う人も多いかもしれませんが、下調べ不足や自分の考えがまとまっていないだけかもしれません。事前準備を行い、少しずつでも苦手意識を解消していきましょう。



パネル・ ディスカッション

異なる意見を持った数人の討論者（パネラー）が聴衆の面前で一定の論題に関して討議し、その後、聴衆も討議に加わって、質疑応答や意見発表を行う座談式公開討論法。

ディベート

ある主題について、異なる立場に分かれて議論すること。

グループワーク の仕方

❖ グループワークの流れとポイント

グループに分かれる

- ①教員の指示にしたがって、グループに分かれる
- ②アイスブレイク

あまり話をしたことがない人とグループになる場合もあるため、グループになじみやすいように、自己紹介したり、ゲーム感覚の簡単なワークをしたりする場合がある。

照れたり、恥ずかしがっていると、始まらないので積極的に声を出そう。

グループの中で進め方を決める

- ①役割分担
 - ・進行役、書記、タイムキーパーなど場の役割
 - ・下調べなどの分担
- ②話し合いの手順

与えられたテーマに対して、現状の問題点／類似する環境／各自の意見など、どのような角度から話し合っていくか、進め方を考える

何事も、誰が、いつまでに、どのようにと手順を明確にすることが必要になるので、手順の決め方を学ぼう。

議論～発表

- ①課題の確認
- ②広く様々な意見を出し合う
- ③出た意見を分類する
(類似の意見は集約、意見の内容別に分類)
- ④それらがどうつながり、解決の糸口は何かなど、話し合い考察を深める
- ⑤グループの意見として、最終的な見解・論拠をまとめる
- ⑥発表のための資料をつくる
- ⑦他のグループに対して、グループでまとめた内容を発表する

自分では気づかなかった意見、自分とは反対の意見も出てくるはず。自分の視野を広げる機会なので、新鮮な気持ちで受け止めよう。

振り返り

- ①良かった点、改善点
- ②自分のグループと他のグループの見解を比較する
- ③グループワークを通じた自分の成長点を確認する

グループワークの中で自分が役割を果たせたか、特に自分はどのような気づきを得られたか、しっかり振り返ろう。

※上記の流れは一例です。授業目的等により、内容は異なることがあります。

4 多様な価値観がふれあう グループワーク「ワールド・カフェ」

❖ ワールド・カフェとは？

「日本大学ワールド・カフェ（通称：N-MIX）^{えぬみっくす}は、全学共通教育科目「自主創造の基礎 2」の授業の1つで、1年次生全員が参加対象という大規模なグループワークです。グループワークの仕方と、多様な考え方への気付きやそこから得たことを学びへ生かす方法などを学修します。

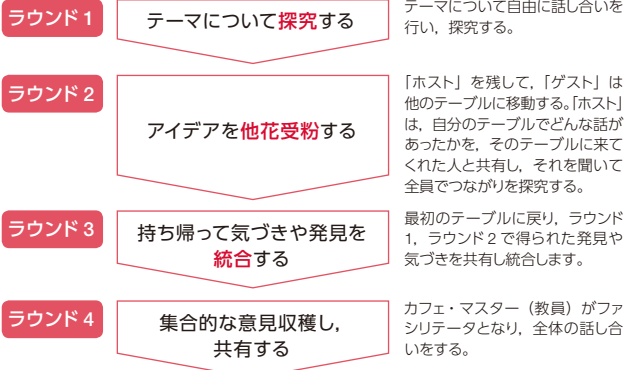
❖ アイデアを広げる「他花受粉*」

ワールド・カフェで行われるワークの特徴は、「他花受粉」。ミツバチが花から花へ飛び回り、花粉が広がっていくように、いくつかのテーブルを回り、アイデアを共有しながら、また新たなアイデアに発展させていく、生産的なスタイルで行われます。

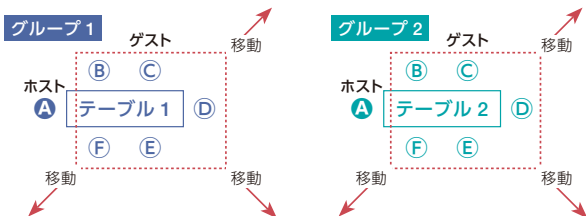
他花受粉

ミツバチが花から花へ、花粉を付けて飛び回り、その花粉が広がることによって、異なる遺伝子が出会い、新たな種が生まれる状態を模した、グループワークの手法。

【ワールド・カフェの進行】



●ホスト（A）はそのままの位置で、ゲスト（B～F）はラウンドごとに各テーブルを回り、気づきを共有。ラウンド3で元に戻り、気づきを統合します。





Personal Page

パーソナル
ページ
04



ワールド・カフェで
気づいたこと、今後に
生かしたいことを記録しよう！

グループワークを
やってみて、自分が
できたこと、良かったところを書いてみよう

他花受粉で感じたこと、発見したことを書いてみよう

今回やってみたグループワークやその中で得た気づきを今後、どのような学びや活動の中で生かせるか書き残しておこう

ワールド・カフェで知り合った、他の学生の見習うべき点を記録しておこう

5 プレゼンテーション

❖ 社会人の必須スキル：プレゼンテーションとは？

ゼミナール（演習）を代表として、大学では学生が研究発表をする機会が多くあります。研究テーマとそのテーマに着眼した背景、調査結果、課題や考察などを順序立てて、他者に伝わるように発表することをプレゼンテーションといいます。

最近では、より高い説得力や理解度を得られるように、パソコンのプレゼンテーションソフトウェア*を使うことが多くなっています。

プレゼンテーションの際は、スライド画面をA4用紙1枚に6画面程度、順番に記載したものをプリントして配付資料（レジュメ）にすると、より効果的な発表になります。事前に、友人に聞いてもらうなどしてリハーサルを行うとよいでしょう。

❖ この学修スタイルで何をえられるのか

プレゼンテーションは、決められた時間内に発表することが原則です。発表する内容を秩序立てて明快にしておくことが必要になります。そのため、論理的思考や効果的に他者へ言葉を伝えるスキルも養われることでしょう。

最近では、学会*でも企業でも、パソコンを活用した発表が主流です。演習でプレゼンテーションソフトウェアを使って研究発表した経験は、卒業後にどのような道に進んだとしても役に立つはずですよ。この使い方を積極的にマスターしましょう。



プレゼンテーション ソフトウェア

PowerPointなど、テキスト・写真・クリップアートなどを編集・配置する機能を持ち、スライドショー形式でスクリーン投影などができるソフトウェアのこと。

学会

学術研究者の団体。また、その会合。

プレゼンテーションの仕方

プレゼンテーションの流れとポイント

① 発表の形式を確認する

- 課題
- 発表日時
- 発表の時間（持ち時間）
- 発表の形式（レジュメ／投影などの方法や資料の分量）

② 発表テーマを決める

- ①で与えられた課題に対して、何を調べて発表するかを決める

③ 疑問・発見→根拠→主張する

- ②で決めたテーマについて、文献などを調べ、疑問や発見からさらに根拠を集めて、自分の主張を組み立てる

④ 発表の構成・順序を考える

- 序論・本論・結論*の3部構成で、発表する内容を文章化する

* P.37 論文とレポートの書き方参照

⑤ 発表資料をつくる

- 発表の形式に合わせて（レジュメ形式／投影形式）、資料を作成する
- わかりやすく、簡潔にまとめるのがポイント

⑥ リハーサルをする

- 友達に聞いてもらい、時間配分や、発表内容は理解しやすいかどうかを確認して、必要に応じて手直りする

⑦ 想定問答を考える

- 発表後には質疑応答があるため、あらかじめ質問を想定して、どう答えるか準備しておく

⑧ レジュメをコピーする

- 発表内容をレジュメにして、発表を聞く人の手元資料として、人数分コピーする（投影の場合は、1ページに複数スライドが収まるように、縮小版をコピー）

発表本番の注意点

大きな声で、ゆっくりと話す

声が小さかったり、早口だったりすると理解しづらくなるので、口調は重要。

聞き手の反応を見ながら話す

資料を読み上げるような発表だと、聞く人への説得力が弱くなる。時々、聞き手を見渡し、反応を見ながら、必要に応じて説明を付け足すようにする。そのため、リハーサルしておくことは重要。

資料のどこを話しているか伝える

発表内容の項目が切り替わるタイミングで、配付したレジュメに示した項目タイトルやスライド番号などを告げるようにすると、聞き手が理解しやすくなる。

時間厳守

持ち時間を守ることは、発表の原則。あらかじめ時間配分を想定すること。時計で進行状況を確認しながら、発表しよう。



学びをサポートする 大学図書館



❖ 様々な目的で使うことができる大学図書館

大学図書館の特徴は、皆さんの学修や研究に役立つ学術書や専門書が豊富に揃っていることにあります。もちろん、それらの本は借りることができます。図書館の“使い方”はこれだけではありません。授業の予習・復習やグループワークを支援するラーニング・commonsなど、多くの学生が様々な目的や用途で図書館を利用しています。

【図書館の主な利用方法】

- 予習・復習など個人学修のためのスペースを利用する
- レポートや論文の資料収集、またパソコンを使ってレポートや論文を執筆する
- 授業で配付されたプリントや必要な資料のコピーを取る
- 図書館にある新聞や趣味の雑誌、小説を読む
- 映画などの視聴覚ソフトを観る
- 可動式の机・椅子、ホワイトボードなどを使ったグループワークをする（ラーニング・commons）

❖ 「情報源」としての図書館

紙の資料だけでなく、パソコンを使ってデータベースや電子資料を調べることもできます。レポートや論文作成には必要なものになりますので、活用方法を知っておきましょう。

❖ 本や資料探しはオンライン検索で

大学図書館の蔵書や資料がどこにあるかを検索するには、OPAC（Online Public Access Catalog）を活用しましょう。

図書館には様々なデータベースがあります。例えば、日本語のデータベースでは、新聞記事を探したり、言葉の意味を知るのに、複数の辞書を同時に調べたりするこ

ともできます。

最近では、図書館のOPAC、各種データベース、電子ジャーナルなど、目的別にどのデータベースを利用するかを考える必要なく、調べたいと思う「言葉」を検索窓に入力するだけで、情報が入手できるディスカバリーサービスを使うこともできます。

検索したら、オリジナル資料にぜひあたってみてください。大学図書館には、ベストセラーのほか、良書がそろっています。良い本は、人の心を豊かにし、人生を変えることもあります。

❖ 探している本や資料が見つからないときは？

日本大学の図書館蔵書冊数は、私立大学で第1位！所属する学部図書館にない資料は、他学部図書館や他大学図書館などから借りたり、コピーを取り寄せたりできるほか、実際に閲覧に行くこともできます。全学生は、どの学部の図書館でも学生証で利用できます。手続き方法は、カウンターで相談してください。

❖ 学生を支援する図書館

本学図書館では、学生視点で図書館を身近で使いやすくするために、学生ボランティア団体がゲーム形式の図書館利用ガイダンス、選書ツアー、スピーカーを招いて交流するカフェなど、様々な企画を複数学部合同で実施しています。他学部の学生とも交流できます。これらの活動を通じて、情報を使いこなす能力はもろろん、プレゼンテーション能力も身に付きます。あなたも参加してみませんか？



ミステリー仕立ての図書館ガイダンス(理工学部船橋)



大学のサポートを上手に利用！ 大学生活のリズムをつかもう

❖ 新入生にとって、「大学の学び」は 誰もが初めて

「大学の学び方に慣れるだろうか…」 「ついていけるだろうか…」。入学したばかりは誰もが不安に思うこと。しかし、そんな心配はいりません。日本大学では、「自主創造の基礎」などの全学共通の初年次教育科目を通じて、「大学での学び方」を身に付けることができます。また、専門分野を学ぶには、高校までの基礎的学力が必要ですが、リメディアル教育*を通じて振り返りや学び直しをサポートしています。多くの学生が専門的な授業にもスムーズに移行できるようになっています。

その他学修への不安は何でも、教員や各種窓口にご相談できますので、大学のしくみをもっと利用して、思いっきり大学生活を満喫する気分で前向きにいきましょう。

❖ 授業や大学生活に戸惑ったら

学部によっては独自に学修支援センターなどを設け、基礎学力の向上をバックアップしています。また学生支援室には、インターカー*や相談員が待機していて、心の不安、将来の悩みなど何でも相談できる場所もあります。

👉 学修支援センター、学生支援室の利用については、各学部のホームページを確認してください。

リメディアル教育

高校までの学習内容に関する補習教育。大学教育を受けるために必要となる基礎的な知識を学ぶ。

インターカー

受理面接者。相談者に会って内容を把握し、最適な相談先や機関を紹介する。聴く技術、把握する知識があり、良い関係づくりができる人。

❖ 身近な教員と話してみよう

～オフィスアワー～

日本大学は、多くの学部で担任制に類する取組を行っています。教員はあなたの授業への出席率や取り組み方についても、他の教員と情報連携して、あなたを見守っています。気が合いそうな教員と話したい、履修する科目の教員と話したい、という場合は、オフィスアワー*が利用できます。担当する科目への質問や予習・復習の相談、種々の相談に応じていますので、気軽に相談してください。

❖ もしも大学生活に行き詰ってしまったら

第一希望だった学部や学科に入学できず前向きになれない、想像していたこととギャップを感じる学生もいるでしょう。悩んでいたり、違う勉強をしてみたいと感じたら、教務課・教学サポート課の職員や教員にまずは相談してください。熟考の上で、転部や転科をすることも可能です。

オフィスアワー

教員が主に研究室に在室し、学生の質問や相談に応じる時間帯。

教員からの メッセージ

質問は何でもウェルカム！

学生の皆さんの中には、教員との距離を感じる人も多いのではないのでしょうか。特に1年生はなかなか教員へ質問ができないのではないのでしょうか。しかし教員は誰でも、学生からの質問は嬉しいものです。ですからわからないこと、もっと詳しく知りたいことがあれば、皆さんからどんどん質問してください。質問は何でもウェルカムです。さあ、学問を通じて知的な冒険に出かけよう。

(法学部 教授 白井 哲也)

Message
メッセージ**身に付く力を意識し、
主体的に学んでほしい**日本大学FD推進センター副センター長／
生産工学部 教授**藤井 孝宜**

本学では、教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有する人材の育成を目指しています。これは皆さんの学びのゴールでもあるので、「日本大学教育憲章」をご自身で確認してください（詳しくは、P.9で説明）。

各学部・学科等でも、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定め、卒業までにどのような力を身に付けるべきかを明確にしています。具体的には、シラバスを参照するといいでしょ。シラバスには、各科目を通じてどのような力が身に付くのか明記されています。それを意識して授業に臨めば、きっと学修成果や成長実感として表れていくでしょう。また、何がよくできて、何ができなかったかという振り返りを大切にしてください。それらをポートフォリオにまとめ、改善に生かす習慣も身に付けてほしいと思います。

ここまで、学ぶ姿勢についてお話ししましたが、初年次の全学共通教育科目「自主創造の基礎」で、その基礎が養えるでしょう。この科目内では、16学部・87学科の学生が参加する「日本大学ワールド・カフェ」も開催されます。他学部の学生とのグループワークを通じて、多様な学生の個性や考え方に触れ、交流する機会です。ここでは、“人に対する発見”を楽しんでください。知らなかった価値観や気づかなかった学びのヒントに出合えるはずですよ。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、授業の大半をオンラインで実施しました。対面授業のようにはいかないところもありますが、オンラインだからこそ、場所や時間にしばられず受講できる利点もあることから、今後はオンライン授業と対面授業の併用が予想されます。こうした状況変化の中で新たに必要になるのが、「時間管理」「自己管理」能力です。難しいと感じるかもしれませんが、「自ら学ぶ」気持ちがあれば、それは自然と身に付くものではないでしょうか。新たな時代の一步を踏み出す皆さんを、教員も全力でサポートしていきます。恐れることなく、1年次に「自ら学ぶ」という大学の学修リズムを手に入れてほしいと思います。

履修や単位修得のための

知識編





履修登録とシラバス



履修登録にはルールがある

1 履修の注意点

履修登録とは、学期（年度）の始めに、各学部で定められた方法にしたがって、履修したい科目を自分自身で選択し、申請することをいいます。ウェブで登録する方法が多いですが、所定の期間内にしなければならないので忘れないように注意しましょう。履修する科目には、卒業までに必ず修得しなければならない必修科目、自分自身で選ぶ選択必修科目、選択科目などがありますが、履修できる学年が決まっていたり、先修条件*があったりと、履修条件が付いていることもありますので、ガイダンスなどでの説明やシラバスを活用して、行うようにしましょう。

先修条件

体系的な学修のための条件。例えば、上級学年のより専門的な配当科目を履修する場合に、その基礎的または教養的な科目を下級学年で履修しておくことで、当該科目の学修を効果的に深く行うことができる。

履修登録のポイント

1	科目の内容はシラバスで確認	受けたい授業の内容は、シラバスで確認する。
2	必修科目は履修年次に必ず履修する	授業科目は、教育活動の成果として保証する卒業の認定に関する方針（DP）を踏まえ、体系的に設けられおり、その核となる必修科目は、他の科目を学ぶ上でも何年次に履修すべきが決められている。
3	学びの目的・方向を自分自身で定め、バランスよく履修する	卒業要件では、学科別専門教育科目以外の科目（一般教育科目・総合教育科目、外国語科目、保健体育科目など）を履修する必要がある。また他学部の科目も履修することができる。これらは、専門分野以外の視点や気づきを得る有用な機会でもある。トータルに自分の学びをデザインし、バランス良く履修しよう。
4	科目数、曜日は無理なく	関心を広げ、積極的に履修することは良いことではあるが、授業ごとに課題や予習・復習が課されるので、欲張りは禁物。また、履修登録単位の上限数が学部・学科で定められていることがあるので確認しましょう。科目数や曜日・時限を適切に配分し、無理のない学修計画を立てることも重要。

2 シラバスの活用

シラバス (Syllabus) *は、授業の概要を理解するためのもので、学生の皆さんの学修を成功に導く役割を果たすため、必ず目を通しておきましょう。

まず自分が受講したい授業科目名と教員名を確認することが第一歩。シラバスは学期ごとに書かれ、多くは1学期で15週の授業計画が示されています。授業のテーマ、目的・到達目標を見ると、何をどこまで学ぶのかがわかります。あなたが今すぐに履修できる科目かどうか、条件も確認しましょう。

また、実際に履修した時のことをイメージして、各回の予習・復習についての指示と、成績評価や評価基準（試験、レポート、発表・発言など重視されるものなど）も確認しましょう。

■ シラバス記載項目

1. 科目の基本情報

- 授業科目名 ● 担当教員名
- 開講学科・コース (必要に応じて記載)
- 対象学年・履修条件 ● 期間 (前期・後期・通年)
- 単位数 ● 必修・選択の別
- 該当する日本大学教育憲章の8つの能力とそのレベル
- 該当DP内容 (番号など)

2. 授業内容

- 授業の概要 ● 授業の目的・到達目標 ● 授業の方法
- 授業時間外の学修 (予習・復習など)
- 授業計画 (半期15週それぞれの内容)
- 成績評価の方法及び基準

3. 教科書など

- 教科書 ● 参考書 (参考ホームページも含む)
- 連絡先 (オフィスアワー, e-mailなど)
- その他 (履修上の注意, 受講生に対する要望, TA・SAの有無など)

4. その他

- 教員の実務経験

シラバス (Syllabus)

科目ごとに授業の概要や各回の授業計画を示したものの。



こうやって見るんだ!?

シラバスの見方について詳しく知ろう!

各学部のホームページ内にある「シラバス」ページを探します（学部ごとに、シラバスが掲載されている画面や構造は異なります）。ここでは、危機管理学部のシラバスの画面を参考にして、シラバスの見方について説明していきます。

シラバス検索画面



- ① 知りたい科目群を絞る
- ② 具体的な検索ワードがわかっている場合は、入力してさらに絞る

科目一覧画面



- ③ 知りたい科目をクリックして、詳細画面へ

❖ 履修トラブルに注意!

登録ミスについて

希望科目の履修登録を失敗してしまうと、授業に全て出席して試験を受けたとしても、単位を修得できなくなります。

【履修登録に失敗してしまったら?】 所定の履修登録期間の他に、履修登録内容確認期間を設けるなどしていますので、そこで再度確認して、場合によっては再登録しましょう。

【やむを得ない理由で登録できなかったら?】 所定の期間に履修登録ができなかったり、確認できなかったりする場合は、早めに教務課に相談しましょう。

【登録単位数の上限】 学期中（年度内）に修得できる受講単位数の上限を設けている場合があります。事前にルールを確認しておきましょう。

学年制

「学年制」とは、各学年での教育課程を修了し、進級・卒業する「学年進級制」を採用のことで、学年によって定められた科目の単位を修得し進級判定されなければ、進級できません。「学年進級制」は、卒業時に国家試験に合格・資格取得する必要のある医・歯・薬系の学部・学科が多く採用しており、日本大学では、医学部、歯学部、松戸歯学部、生物資源科学部（獣医学科）および薬学部が、この方式を採用しています。詳しくは、各学部の『履修要覧』などを参照してください。

科目詳細画面

科目ナンバー	RMGT/SSCS1216								
科目名	自主創造の基礎 2								
担当教員	日大本太郎								
対象学年	1年,2年,3年,4年								
曜日・時間	金 2								
講義室	1307								
授業形態	演習								
科目大分類	総合教育								
科目中分類	総合基礎								
科目小分類	リテラー キャリア								
科目の位置付け (開発能力)	<p>■D1-P1 学部での1年次前半科目の履修後の到達</p> <p>DP2-A [日本の精神文化を理解し、多様な価値観を尊重する姿勢] 地誌的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し、互恵関係を構築することができる。</p> <p>DP2-B [日本の精神文化を理解し、多様な価値観を尊重する姿勢] 自己の存在意義を認め、自らを高めたいという意欲をもち、自らを高めるための努力をすることができる。</p> <p>DP4-F [探究力・課題解決力] 問題を捉え、問いを立てる能力を身に付け、それに対する高-結論-判断を合理的に導くために、論理的収集分析体系的に行い、オープンで問題・課題に直面する能力を身に付け、結果に責任を負うことができる。</p> <p>DP4-I [読解力・分析力] 文章を読み、複数テーマを認識し、論じ、情報の集約と選択、分析・加工を行う能力を身に付け、問題・課題に適切に対応することができる。</p> <p>DP5-J [読解力・読解力・構成力] シンタックスの概念を身に付け、正確に読解し、行文中、自分の思考及び行動のバックグラウンドとするとともに、既習の言語を革新的かつ創造的に読解し、リスクリテラシーに結果に責任を負うことができる。</p> <p>DP7-A [読解力・書写力] 集団的課題解決を行う際に、自己の立場や意見を積極的に、且に集団の調和を高めようとする。</p> <p>■C1-P1 学部を通して履修するコアプログラム「キャリア」を履修するコアプログラム「コア」上の到達</p> <p>A2 (10%) 異文化適応 B1 (30%) 自己啓発 C1 (5%) 倫理規範・社会意識 I1 (10%) 読解力・分析と読解 J1 (10%) 創造的思考 L1 (10%) ティーチング M1 (5%) 統合的・応用的学習</p>								
教員の業務経歴									
成績ターゲット区分	<p>■成績ターゲット</p> <p>2. 進修目標 ~ 3. 発展期</p>								
科目概要・キーワード	<p>日本大学において全学的に導入した初年度科目で、自主創造の基礎 1 を受け、さらに創造性を伸ばすための発展的な学びを行う。2年次生時以降の領域科目や専攻のキャリア、社会とのつながりを意識した各グループワークを行う。更に個人研究を確立するための、研究方法、調査方法について学ぶことで、2年次での専門科目に対する自信、創造性を高めることを目的としている。</p> <p>■キーワード キヤリア、チームワーク、学習</p>								
授業の趣向	<p>■授業の目的</p> <p>自主創造の基礎 1 で身に付けたスキルをチームで活用し、実践し、学ぶ。</p> <p>■授業の目的</p> <p>自主創造の基礎 1 で身に付けたスキルを活用し、危機管理の専門知識を学ぶための基礎(社会人としての基礎知識・技法・態度)を身につけることを目指しています。</p> <p>■授業の到達目標</p> <p>自主創造の基礎 1 で身に付けたスキルを活用し、危機管理の専門知識を学ぶための基礎(社会人としての基礎知識・技法・態度)を身につけることを目指しています。</p> <p>1. 具体的な、2年生から始まる領域の課題を行うための合同演習を行う。授業のキャリアを履修する。</p> <p>2. 4領域の得意分野に照準を当てたキャリアを履修する。得意分野のキャリアを履修する。</p> <p>3. 各分野の得意分野のキャリアを履修する。得意分野のキャリアを履修する。得意分野のキャリアを履修する。</p> <p>2年次以降の基礎演習の選択、キャリアの選択ができようになりキャリア教育の重要性を認識しています。</p>								
総合到達目標	<p>■リーディングスキルを履修できる(4回～9回)。</p> <p>■多様な考えを認めることができる(1回～14回)。</p> <p>■他者の意見を尊重できる(1回～14回)。</p> <p>■他者の考えを正しく伝え理解することができる(1回～14回)。</p> <p>■協働で情報収集することができる(4回～9回)。</p> <p>■自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる(1回～14回)。</p> <p>■解決方法を話し、協働で検討し、提案することができる(1回～9回)。</p> <p>■将来のキャリアについて説明することができる(1回～15回)。</p>								
成績評価方法	<p>■成績評価方法</p> <p>授業参加型(50%)</p> <p>(成績評価の方法) チームワークの育成については、教員がフィードバックを基に評価をします。また、毎授業のワークシートを提出し、それに基づき評価を行います。(フィードバックの方法) 講義については授業中に授業中に作業における疑問や分からない点、および5分点を評価するのがあります。また、ワークシートを提出し、それに基づき評価を行います。</p> <p>(成績評価の方法) レポート課題はWCLによる評価基準に基づき評価を行います。また、期末レポートについてはルーブリック評価の基準に基づき評価を行います。(フィードバックの方法) 個人課題については、提出した次の授業での十分な解答が得られるよう解説を行います。</p> <p>(成績評価の方法) フェルゼーションのルーブリック評価に基づき評価を行います。(フィードバックの方法) フェルゼーション報告書と教員が講評を行うので、そのフィードバックを行います。</p>								
履修条件	必修のため、特におおきい。								
履修上の注意	特におおきい。								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>1. 授業テーマ</p> <p>自主創造の基礎 2 のスタートアップ1</p> <p>2. 授業概要</p> <p>授業の進め方や評価、将来のキャリアデザインの方法を学ぶこと(A2, B1, C1)。今後の自分のキャリアを見据えた学習目標を設定できる5Cになる</p> <p>(I1, J1, L1, M1)</p> <p>3. 予習(120分)</p> <p>新年度の学習を振り返り、後年度の学習目標や前年度の学習課題について考える。</p> <p>4. 復習(120分)</p> <p>レポート対話キャリアデザインシートから後年度の目標を考えてみる。</p> </td> </tr> <tr> <td>14</td> <td> <p>1. レポート作成 2</p> <p>2. 授業概要</p> <p>レポート課題の作成手順を進めることで、レポート課題の形式要件に必要なスキルを修得できる5Cになる(A2, B1, C1, I1, J1, L1, M1)。</p> <p>3. 予習(120分)</p> <p>レポートの内容に関する部分を用いて。</p> <p>4. 復習(120分)</p> <p>協働学習の進捗を確認して。</p> </td> </tr> <tr> <td>15</td> <td> <p>1. 授業テーマ</p> <p>自主創造の基礎 2 の振り返り</p> <p>2. 授業概要</p> <p>自主創造の基礎 2 行った授業を振り返ることで(A2, B1, C1)、自分の将来のキャリアについて危機管理の専門知識を学ぶ関心を持って説明できる5Cになる(I1, J1, L1, M1)。</p> <p>3. 予習(120分)</p> <p>レポートの形式要件、内容について最終確認を行う。</p> <p>4. 復習(120分)</p> <p>今まででSDSシートに自分のキャリアや2年次の学習について検討してみる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>1. 授業テーマ</p> <p>自主創造の基礎 2 のスタートアップ1</p> <p>2. 授業概要</p> <p>授業の進め方や評価、将来のキャリアデザインの方法を学ぶこと(A2, B1, C1)。今後の自分のキャリアを見据えた学習目標を設定できる5Cになる</p> <p>(I1, J1, L1, M1)</p> <p>3. 予習(120分)</p> <p>新年度の学習を振り返り、後年度の学習目標や前年度の学習課題について考える。</p> <p>4. 復習(120分)</p> <p>レポート対話キャリアデザインシートから後年度の目標を考えてみる。</p>	14	<p>1. レポート作成 2</p> <p>2. 授業概要</p> <p>レポート課題の作成手順を進めることで、レポート課題の形式要件に必要なスキルを修得できる5Cになる(A2, B1, C1, I1, J1, L1, M1)。</p> <p>3. 予習(120分)</p> <p>レポートの内容に関する部分を用いて。</p> <p>4. 復習(120分)</p> <p>協働学習の進捗を確認して。</p>	15	<p>1. 授業テーマ</p> <p>自主創造の基礎 2 の振り返り</p> <p>2. 授業概要</p> <p>自主創造の基礎 2 行った授業を振り返ることで(A2, B1, C1)、自分の将来のキャリアについて危機管理の専門知識を学ぶ関心を持って説明できる5Cになる(I1, J1, L1, M1)。</p> <p>3. 予習(120分)</p> <p>レポートの形式要件、内容について最終確認を行う。</p> <p>4. 復習(120分)</p> <p>今まででSDSシートに自分のキャリアや2年次の学習について検討してみる。</p>
回	内容								
1	<p>1. 授業テーマ</p> <p>自主創造の基礎 2 のスタートアップ1</p> <p>2. 授業概要</p> <p>授業の進め方や評価、将来のキャリアデザインの方法を学ぶこと(A2, B1, C1)。今後の自分のキャリアを見据えた学習目標を設定できる5Cになる</p> <p>(I1, J1, L1, M1)</p> <p>3. 予習(120分)</p> <p>新年度の学習を振り返り、後年度の学習目標や前年度の学習課題について考える。</p> <p>4. 復習(120分)</p> <p>レポート対話キャリアデザインシートから後年度の目標を考えてみる。</p>								
14	<p>1. レポート作成 2</p> <p>2. 授業概要</p> <p>レポート課題の作成手順を進めることで、レポート課題の形式要件に必要なスキルを修得できる5Cになる(A2, B1, C1, I1, J1, L1, M1)。</p> <p>3. 予習(120分)</p> <p>レポートの内容に関する部分を用いて。</p> <p>4. 復習(120分)</p> <p>協働学習の進捗を確認して。</p>								
15	<p>1. 授業テーマ</p> <p>自主創造の基礎 2 の振り返り</p> <p>2. 授業概要</p> <p>自主創造の基礎 2 行った授業を振り返ることで(A2, B1, C1)、自分の将来のキャリアについて危機管理の専門知識を学ぶ関心を持って説明できる5Cになる(I1, J1, L1, M1)。</p> <p>3. 予習(120分)</p> <p>レポートの形式要件、内容について最終確認を行う。</p> <p>4. 復習(120分)</p> <p>今まででSDSシートに自分のキャリアや2年次の学習について検討してみる。</p>								
関連科目	自主創造の基礎 1								
教科書	『自主創造』のためのLearning Guide (第5版)『日本大学FD進捗センター』、2016年								
参考書・参考文献	開講時に指示します。								
連絡先・オフィスワーク	開講時に指示します。								
研究比率	—								

科目の基本情報

- ・科目名 ・担当教員
- ・曜日・時間 ・講義室
- ・開講学期
- ・授業形態(講義/実習)
- ・対象学年(履修できる年次)
- ・単位区分(必修/選択), 単位数

科目の分類

科目の位置付け

学生にどのような力を身に付けることを目的とした科目なのか明示されている。

科目の概要、

成績・評価について

どのようなことを学ぶ科目か、成績はどのように評価されるかについて明示されている。

- ・科目概要、キーワード
- ・授業の趣旨
- ・総合到達目標(学生の習熟度)
- ・成績評価方法(授業参加、課題提出、発表など、成績に課外より重視する項目とその比重や達成度など)

履修条件

履修にあたり、条件がある場合は提示されている。

15週の各回の授業内容

授業のテーマと概要、予習・復習・課題の内容などの説明と、授業進行の時間配分まで、くわしく記載されている。

教科書・参考書の指定、

教員の連絡先



成績・卒業要件



成績はどのように決まるの？

1 成績評価と単位

❖ 成績評価のしくみと意味

「成績評価」は、履修した科目の学修成果で教員が判断（評価）します。その学修成果については、できるだけ公平かつ客観的に評価するため、正答式やルーブリック評価（P.55 参照）など、適切な評価方法を用い、あらかじめ評価の基準や評価の対象（レポート、定期試験、授業参加度など）をシラバスで明記し、学生にも事前に理解できるようにしています。成績評価は、これまでの取組を振り返り、卒業までの履修計画を立てる上でも参考になることでしょう。

また教える側の教員も、成績を通じて明らかになる授業に対する学生の理解度を資料とし、授業をより効果的に展開できるよう、授業改善に努力しています。

❖ 成績と「単位」の関連

履修した科目で規定の成績評価を得ると、「単位」を修得できます。1科目は通常15週にわたり、体系的に設計されているため、日ごろからの授業への取組が重要。大学の教育課程では、個々の授業科目ごとに設定された単位を積み重ねていきます。

修得した単位が卒業要件を満たすことによって修了となり、学位*が授与されます。



学位

大学・短期大学を卒業した人や大学院の課程を修了した人に対して授与される称号。

2 授業や課題ごとに達成度を測る，ルーブリック評価

❖ ルーブリックとは？

正解・不正解では測れないレポートやプレゼンテーションなどを評価するツールとして、日本大学では一部の科目でルーブリック評価を導入しています。あらかじめ設定された授業や課題での到達目標*に対して、皆さんが「どの程度」達成できたのかを段階別の評価基準で測るので、目に見えにくい「成果」や「努力」を可視化することができます。

❖ ルーブリックのしくみと使い方

ルーブリックは、段階別に達成度の状態を文章化*しているため、皆さんは評価されるポイントがはっきりわかります。また反対にその状態を目標にして、授業や課題に取り組むことができるので、学びや成長の指標として、皆さん自身が活用できるようになっています。

到達目標

科目（授業）で育成する能力や能力レベルの達成目標のこと。学生はそれを目標に、授業を受け学ぶ必要がある。到達目標は、教員が設定し、シラバスで提示される。また、テスト、レポート、課題に適用するルーブリックも記されている。

段階別に達成度の状態を文章化

評価ポイントが明快になるという、学生側のメリットがある。他方、教員の主観が影響する恐れが少なく（透明性）、複数の教員が評価しても同じ結果が得られる（公平性）という、評価者の教員にとってのメリットもある。

■ ルーブリックを使った評価表の例

（レポート採点用のルーブリック）

評価の基準

		評価の基準		
領域	観点	A	B	C
評価の観点	構成	全体的に非常にわかりやすいように配慮されている。	配慮はなされているが、わかりにくい部分が一歩ある。	配慮はなされておらず、全体的に非常にわかりにくい。
	記述内容の正確さ	綴りのミスや誤字、脱字がない。	綴りのミスまたは誤字、脱字は、全部で3箇所以内である。	綴りのミスまたは誤字、脱字が、全部で4箇所以上ある。
	振り返り	自己の受け止め方がどう変わったか、今までの思い込みが変わったかなどの振り返りに関する記述がある。	振り返りについての記述が十分になされている。	振り返りらしき記述はあるが、十分とはいえない。

3 予習・復習も単位のうち!? 単位修得に必要な学修時間

授業科目の単位に必要な学修時間は、大学設置基準*で、「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし」と規定されています。日本大学は、大学設置基準に基づいて定めた「日本大学学則」により、次のとおり授業科目の単位計算をしています。

種別	1単位に要する授業時間
講義、演習科目	15時間から30時間までの範囲で学部等が定める時間の授業をもって1単位
実験・実習・実技科目	30時間から45時間までの範囲で学部等が定める時間 ^(注1) の授業をもって1単位

(注1) 芸術学部における個人指導による実技の授業については、15時間の授業をもって1単位とする。

* 講義、演習、実験、実習または実技のうち2つ以上の方法により授業を行う場合については、その組み合わせに応じ、上表に規定する基準を考慮して学部等が定める時間の授業をもって1単位とする。

* 教育上必要と認められる場合には、修得すべき単位の一部について、時間制をとっている。

毎週1時間*の授業を15週行って1単位としているため、大学設置基準で規定されている「45時間の学修を必要とする内容」を満たすには、1授業科目に対して2時間の授業時間外の学修が求められます。つまり、授業時間に加え、予習・復習の時間も単位に含まれると考えられています。

授業の理解を助けるために、レポートや課題などが課されることがありますが、この単位の持つ意味（単位の実質化）をよく理解し、真剣に学修に取り組んでください。課題が特に与えられなくても、予習・復習を習慣付けることが必要です。

大学設置基準

大学を設置し運営していくにあたり必要な最低の基準を定めた文部科学省令。

講義の場合

授業時間 2 時間
+
授業時間外の学修
(予習・復習など)
4 時間

× 15 週 = 90 時間の学修

〈例〉

予習	授業	復習
2時間	2時間	2時間

× 15 週 = 2 単位

1 時間

大学では、45分を「1時間」と計算しているため、90分間の1授業時間は「2時間」となる。例えば、2単位の講義科目の場合は、1授業時間（90分）の授業を15週行い、30時間確保していることになり、授業時間外学修の60時間と合わせて単位数として2単位を与える、と考える。

4 厳正な成績評価のための基準（GPA 制度）

日本大学では、厳格な成績評価や綿密な履修指導、学修の質保証を目的として、GPA（Grade Point Average）制度を導入しています。GPAとは、成績評価別に定められた係数を付与して、1単位あたりの平均値を算出する成績評価方法です（下表「成績評価基準」参照）。

またGPA値は成績評価と、科目の単位数を関連付けて算出するので（下表「GPA計算式」参照）、単位数によって、“学修の重み”が異なってきます。S評価が多くても、単位数の大きい科目を落としてしまうと、GPA評価が下がってしまうこともありますので、十分理解した上で授業に取り組んでください。

成績評価基準

		素点	評価	係数	内容	GPA
判定	合格	100～90点	S	4	特に優れた成績を示したもの	対象
		89～80点	A	3	優れた成績を示したもの	
		79～70点	B	2	妥当と認められたもの	
		69～60点	C	1	合格と認められるための成績を示したもの	
	不合格	59点以下	D	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの	
無判定		—	E	0	履修登録をしたが成績を示さなかったもの	対象外
		—	P	—	履修登録後、所定の履修中止手続きを取ったもの	
		—	N	—	留学や編入学などにより、修得単位として認定になったもの	

GPA 計算式

$$\frac{\left(\begin{array}{c} 4 \times S \text{ の} \\ \text{修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 3 \times A \text{ の} \\ \text{修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 2 \times B \text{ の} \\ \text{修得単位数} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} 1 \times C \text{ の} \\ \text{修得単位数} \end{array} \right)}{\text{総履修単位数 (S+A+B+C+D+E)}}$$

- ※ 分母には、P（履修中止科目）およびN（認定科目）は含まず、GPAには算入しない。
- ※ GPA算出の対象科目は、学科の課程修了に関わる授業科目（卒業論文・卒業研究・卒業制作を含む）となる。
- ※ 「成績証明書」では、合格した授業科目の成績（S、A、B、C）および認定科目（N）のみを表示する。したがって、不合格科目（D）や履修登録をしたが成績を示さなかった科目（E）および履修中止手続きをした科目（P）については、「成績証明書」に表示されない。
- ※ D評価またはE評価となった科目を再履修しない場合は、GPA算出の際、総履修単位数として分母にそのまま残るので、注意が必要。なお、D評価またはE評価となった科目を再履修した場合、累積のGPA算出の際には、最後の履修による成績および単位数のみを算入する。
- ※ GPA制度の詳細は、学部等で配付される『学部要覧』などを参照のこと。

❖ 履修登録 → 成績 → 振り返り

学期末や年度始めに通知される「成績表」に示された GPA を検証しましょう。その学期や学年における学修を振り返ることにより、次学期や次年度の履修計画を立てる指標となります。いったん履修登録した科目は、履修中止手続きをしない限り GPA の対象となります。こうした学修プロセスは、履修を通じて「自主創造」できる能力を身に付けるためのものでもあるので、しっかり取り組みましょう。

5 授業改善を促す学生の“声”

❖ 学生の意見は授業改善に反映される

日本大学では、授業ごとに実施する、学生の皆さんの授業改善アンケート調査*によって、「学生による授業評価」を行っています。皆さんの率直な意見や日ごろ感じていることを教員に届けるとともに、大学は、アンケートの結果を分析して、授業の問題点・反省すべき点を洗い出し、授業の改善や学修効果の向上を図るよう努めています。つまり、学生の皆さんの声によって、授業は改善されていきます。大学の授業の内容や進め方は教員だけの考えで決められるのではなく、学生の意見を反映し、授業の改革・改善が行われていくわけです。

授業改善アンケート調査

理解しやすい授業になっているかといった、教員個人の授業に対する学生の率直な意見収集や、学部・学科単位でのカリキュラム改善などを目的として、学生に行う「授業」に関するアンケート調査。





卒業への道のり

1 卒業要件

❖ 卒業が認められる「卒業要件」は 学部・学科ごとに違う

学部・学科によって定められた卒業の認定に関する方針(DP)の下、修業年限に達し、所定の授業科目および単位を修得すると卒業が認められます。学部・学科ごとに卒業のために必要な単位数は異なり、また学年が上がる際にも修得すべき単位や科目が規定されている場合があります。皆さんは、所属する学部・学科の卒業要件をきちんと確認するとともに、1年次の履修から計画的に積み上げていく必要があります。

❖ 学位とは？

学位とは、大学や大学院の課程を修了した人に授与される称号です。学部生は「学士」、短期大学部生は「短期大学士」の学位が授与されます。学位は、専攻分野の名称が併記されます。例えば法学部の場合なら「学士(法学)」となります。

このように、学位は日本大学で特定の専門分野を学修し、一定の教育課程を修めた証しとなるのです。

2 さらに専門分野を追究するなら

もっと専門分野の知識を深化させたい、研究者を目指したいと思ったら、大学院進学の道があります。

大学院では、修士^{*}、博士^{*}、あるいは専門職^{*}の学位取得に向けて、学修・研究することになります。修士以上の学位は、一定の専門性を有する人材としての称号なので、取得すると研究職や大学教員などへの道が広がります。

修士

大学院の修士課程(博士前期課程)を修了し、論文などの審査に合格した者に対して、「修士」の学位が授与される。

博士

大学院の博士課程(博士後期課程)を修了し、論文などの審査に合格した者に対して、「博士」の学位が授与される。

専門職

専門職大学院を修了すると、「専門職学位」が授与される。



学修環境の充実のために



快適な学修環境のための心得や大学のサポート

1 学修の不安や悩みは相談しよう

大学に入学したばかりの皆さんは、期待で胸が膨らむ一方、大学の授業内容についていけるか、人間関係はうまくいかなど、様々な不安も抱えていると思います。

日本大学では、様々な窓口を開設し、学生をサポートしています。迷ったり悩んだりした時は、それらを活用して、よりよい学修環境をつくっていきましょう。

相談窓口やサポート制度

学部ごとに設置されています。利用方法・時間は各学部ホームページで確認してください。

教務課	履修に関する相談や修学に関する各種手続きを行う場所です。学生証のこと、入学・休学・復学・退学・除籍に関すること、授業や成績に関すること、資格課程に関することなどの各種手続きや証明書発行などを扱っています。
学生課	学生の大学生活に関わるサポートを行う場所です。学生団体の行事や施設に関わること、奨学金に関わること、学生寮や通学定期・学生割引に関わること、遺失物・アルバイトに関わることなどの手続きも扱っています。
就職指導課	就職活動に役立つ情報の提供、就職関連のセミナーやプログラムを開催しています。また、就職に関する相談、将来に関する不安や悩みに専門の相談員（キャリアカウンセラー）が応える個別相談コーナーも設けています。
学生支援室	学生の皆さんが悩んだり、困ったり、話を聴いてほしいときに、安心して相談できる場所です。専門スタッフがカウンセリングも行います。
オフィスアワー	学生の皆さんが教員に聞いてみたいことや、相談したいことがあった場合、教員の研究室を訪ね、教員と話ができる時間です。シラバスなどに記載されている各教員のオフィスアワー時間を確認し、授業や事前学修の疑問点解消のため、積極的に活用するとよいでしょう。

※三軒茶屋キャンパスでは、「教学サポート課」が教務課・学生課・就職指導課の機能を担っています。

2 大人として、行動に責任を持とう

❖ 学修マナーを守ろう

大学は、様々な人が様々な学びの目的を持って集まる、いわば一つの社会ともいえます。高校と違い、教員による生活指導がないのは、皆さんがルールやマナーを知る大人と認める前提があるためです。自らの責任のある行動を心掛けてください。

授業での私語、遅刻は厳禁です。授業の進行の妨げになるばかりか、静かに授業に取り組んでいる他の学生の学修権の侵害にもなるからです。

また授業内の携帯端末の使用や教室での充電はマナー違反なので、絶対にやめてください。キャンパス内の決められた場所での飲食・喫煙なども当然のルールです。

大学人全員が楽しく過ごせるキャンパスは、学生の皆さんが創り出すものなのです。

❖ 社会的問題を起こさないために

キャンパスの外でも、社会的なルールや大学の規則などを守ることは大切。特に未成年の飲酒や薬物などへの誘惑には絶対に乗ってはいけません。

SNS の利用にも注意が必要です。SNS への不用意な投稿が見知らぬ人々を不愉快にしたり、傷つけたり、内容によっては人権侵害になることも起こり得ます。

また、反社会的勢力*と関わりを持たないようにしてください。法律に触れる事態になりかねません。

こうしたことは同時に、自分自身を守ることでもあります。細心の注意を払いましょう。



反社会的勢力

暴力や威力、または詐欺的手法を駆使した不当な行為により、経済的利益を追求する集団または個人の総称。

3 人権侵害の被害や悩みは かかえ込まないで！

❖ 人権侵害のない学修環境維持のために

日本大学では、「人権侵害防止ガイドライン」などを定め、基本的人権を侵害するような差別的な扱いによって、個人の尊厳を不当に傷つける行為を禁じています。人権は難しいものではなく、誰でも心で理解し、感じることでできるものです。人権について正しく理解し、一人ひとりの人権を尊重する意識を持ち行動をしていきましょう。

主な人権侵害には、次のようなものがあります。

- 性（ジェンダー）・国籍・人種・民族・出身地・宗教・思想・信条・性的指向・身体・健康などに関する差別
- セクシュアル・ハラスメント*（セクハラ）
- アカデミック・ハラスメント*（アカハラ）
- アルコール・ハラスメント*（アルハラ）
- SNS を利用した誹謗・中傷
- ストーカー行為、デートDV* など

❖ 人権侵害を「しない」「させない」ために

- 偏見や差別、誤った知識を排し、互いの人権・人格を尊重することが重要です。
- 相手が拒否し、嫌がっていることがわかった場合には、同じ言動を繰り返さないようにします。拒否されないことを同意や合意と勘違いしてはいけません。
- 問題提起する人をトラブルメーカーとみなしたり、人権侵害を当事者間の問題として無視したりせず、声をかけて相談に乗りましょう。「見て見ぬふり」は、人権侵害への加担とされる場合があります。

セクシュアル・ ハラスメント

相手の意に反する性的言動により、相手に不快感や不利益を与え、人権を侵害すること。略して「セクハラ」ともいう。

アカデミック・ ハラスメント

教育・研究上の優越的な地位や権限を利用して行われる不適切で不当な言動・指導・待遇により、相手の良好な学修環境を奪うこと。

アルコール・ ハラスメント

飲酒やイッキ飲みの強要、意図的な酔いつぶし、飲めない人への配慮を欠くこと、酔った上での迷惑行為（暴言・暴力、ひんしゅく行為、セクハラなど）。

デートDV

交際相手を怖がらせたり、傷つけたりして、自分の思いどおりに動かそうとする態度や行動。

❖ 人権侵害の被害に遭ったら

黙っていたり、無視したりしていても状況は改善されません。かえって行為者に、その言動を容認していると誤解され、エスカレートする場合があります。不快だという気持ちを、相手に対してははっきり伝えることが大切です。決して一人で悩まず、信頼できる人や人権相談オフィス*に相談してください。

❖ 人権相談オフィス

人権相談オフィスでは、学生からの相談を受け付け、学内外の関係分野の専門家（弁護士・医師・精神保健福祉士・看護師・保健師）である人権アドバイザーが、面談を通して問題解決のプロセスを策定します。相談者は、相談したことによって不利益を被ることはありません。相談したことが外部に漏れるなどして不利益を被ったり、プライバシーが侵害されることもありません。相談者の意思を最大限尊重します。

詳しくは、「人権侵害防止リーフレット」や「人権侵害防止・解決ガイド*」のウェブページをご覧ください。



人権相談オフィスの 連絡先

TEL. 03-3221-2562
E-mail. jinken@
nihon-u.ac.jp

学外相談窓口 (光和総合法律事務所) の連絡先

TEL. 03-5562-2521
E-mail. gakugai- jinken@
nihon-u.ac.jp

「人権侵害防止・解決 ガイド」の URL

[http://www.nihon-u.ac.jp/
about_nu/effort/human_
right/](http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/effort/human_right/)



企画・編集

全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

- リーダー 臼井 哲也(法学部教授)
メンバー 西山 秀人(商学部教授)
齋藤 義雄(工学部教授)
須江 隆(生物資源科学部教授)
後藤 英次(学務部学務課課長)
濱野 泰三(学務部学務課課長補佐)
芳 祥子(学務部学務課主任)

このガイドブックは、多くの方々や関係部署の御協力により作成されています。

この場をお借りして、感謝申し上げます。

※本ガイドブックに記載した役職、資格等については、令和2年(2020)12月現在のものです。

『ミライツクル』に関する新たなアイデアや御意見などがありましたら、
学務部学務課(adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp)へお寄せください。

日本大学FD推進センターウェブサイト

URL:<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/>



FD推進センターでは、本学のFDに関する取組や『ミライツクル』をはじめとする各種発行人などをウェブサイトに掲載しています。
ぜひ、ご活用ください。

ミライツクル

Learning Guide

発行日 令和3(2021)年4月1日 第10版

発行者 日本大学FD推進センター

センター長 本田 和也

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24

電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315

e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp

所管部署:日本大学 本部 学務部学務課

本書に掲載した文章、写真、イラスト、図版等の無断転載・複製を禁じます。

Copyright ©Nihon University 2021 All Rights Reserved.



日本大学FD推進センター